SONY®

4-447-266-**02**(1)

IC レコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠ **警告** 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

保証書は、裏面に印刷されています。

ICD-SX1000

⚠警告 安全のために

事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

- **安全のための注意事項を守る**
- **故障したら使わない**
- **万一異常が起きたら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

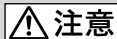
警告表示の意味

この取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなど人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

接触禁止

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

運転中は使用しない

- 自動車、オートバイなどの運転をしながらヘッドホンなどを使用したり、細かい操作をしたり、表示画面を見ることは絶対におやめください。交通事故の原因となります。
- また、歩きながら使用するときも、事故を防ぐため、周囲の交通や路面状況に充分ご注意ください。

内部に水や異物を落とさない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。とくに風呂場では絶対に使用しないでください。

雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れない

感電の原因となります。

マニュアルについて

紙で見る

本書(取扱説明書)

ICレコーダーの詳細操作情報を記載しています。

クイックスタートガイド(別冊)

ICレコーダーの基本操作(録音・再生・消去)や上手に録音、再生するための情報などを記載しています。

パソコン
スマートホン
タブレットで見る

ヘルプガイド

パソコンでICレコーダーを楽しむ情報も含めた詳細な情報や、困ったときの対処方法を調べることができます。(→ 161ページ)

また、外出先などでスマートホンやタブレット端末で調べることもできます。

ICレコーダー サポート・お問い合わせページ(→ 161ページ)

トラブルの解決方法や接続機器の互換性情報、最新情報を掲載しています。

Sound Organizerヘルプ(→ 130ページ)

Sound Organizerの使いかたについて詳しく記載しています。

目次

準備する

録音する

再生する

消去する

編集する

メニューについて

パソコンを活用する

その他

困ったときは

箱の中身を確認する

本体(1)

ステレオヘッドホン(1)

USB接続補助ケーブル(1)

お使いのパソコンにICレコーダーを直接接続できない場合は、付属のUSB接続補助ケーブルをお使いください。

スタンド(1)*

キャリングケース(1)*

ウィンドスクリーン(1)

クイックスタートガイド(1)

取扱説明書　本書(1)

保証書

(取扱説明書の裏面に印刷されています。)

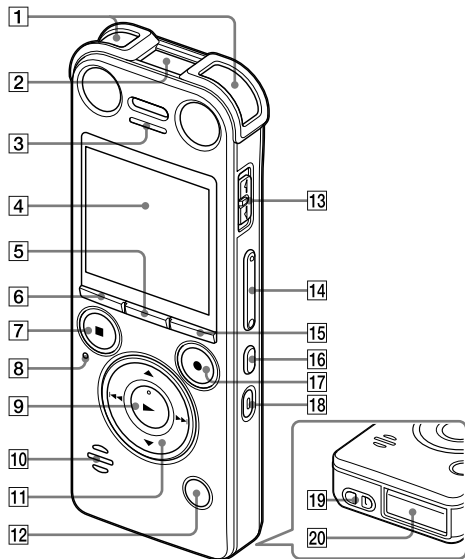
* キャリングケースとスタンドは組み合わせた状態で付属しています。キャリングケースとしてはスタンドと組み合わせた状態でお使いください。スタンドとしてはキャリングケースからはずして、単体でお使いいただくこともできます。

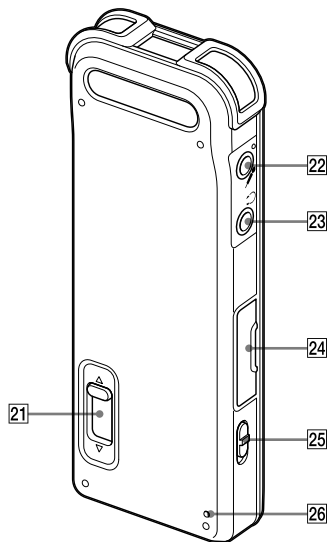
ICレコーダー本体の内蔵メモリーには、ヘルプガイドが保存されています。ヘルプガイドは、パソコンにインストールしてお使いください。

この取扱説明書で説明している以外の変更や改造を行った場合、ICレコーダーを使用できなくなることがありますので、ご注意ください。

本製品はメモリースティック マイクロ™ (M2™)メディアに対応しています。"M2™"は"メモリースティック マイクロ™"の略称です。本文では今後略称M2™を用いて記述します。

各部の名前

本体（表面）

1 内蔵マイク（ステレオ）（L/R）
2 内蔵ズームマイク（モノラル）
3 ピークランプ
4 表示窓
5 シーンボタン
6 🗀（フォルダ）ボタン
7 ■ 停止ボタン
8 アクセスランプ
9 ► （再生／決定）ボタン*1
10 スピーカー
11 コントロールボタン（▲、▼ ／ ⏮（早戻し）、⏭（早送り））
12 トラックマークボタン
13 電源・ホールドスイッチ
14 音量－／＋ボタン*1
15 メニューボタン
16 ⮌（リピート） A-Bボタン
17 ● 録音／一時停止ボタン、録音ランプ
18 消去ボタン
19 ストラップ取り付け部（ストラップは付属していません。）
20 USB端子格納部（USB端子はふたの中に格納されています。）

本体(裏面)

21 USB DIRECT (スライド式USB端子用)つまみ

22 (マイク)ジャック(プラグインパワー)*1

23 (ヘッドホン)ジャック

24 M2™/microSDメモリーカードスロット
(スロット蓋の中にあります。)*2

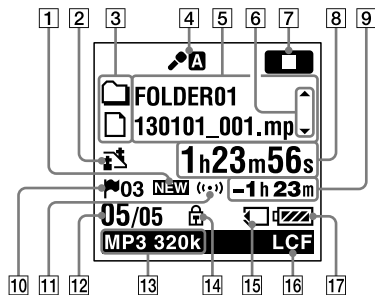
25 DPC (速度) ／ KEY CTRL (キーコントロール)
スイッチ

26 RESET (リセット)ボタン

*1 凸点(突起)がついています。操作の目安、端子の識別としてお使いください。

*2 本書では、M2™とmicroSDカードを総称して「メモリーカード」と呼びます。また、M2™ ／ microSDメモリーカードスロットは「メモリーカードスロット」と呼びます。

表示窓について

停止時

ご注意

「表示窓について」に記載の画面は、画面機能の説明のため、一部実際の画面表示とは異なる場合があります。

1 ポッドキャスト新着情報
Sound Organizerから新しいポッドキャストファイルが転送された場合に表示されます（125ページ）。

2 シーンセレクト設定表示
選択しているシーンが表示されます。シーンが設定されているときにだけ表示されます（46ページ）。

3 曲情報種別表示（72ページ）

4 感度設定表示
メニューで設定されている感度設定が表示されます（45ページ）。

5 曲情報表示
曲情報種別に合わせたそれぞれの名称（フォルダ名、タイトル名、アーティスト名、ファイル名）が表示されます（72ページ）。

6 曲情報切り換え操作ガイド
▲または▼を押して、曲情報表示を順に切り換えることができます（72ページ）。

7 動作モード表示
ICレコーダーの動作状態が表示されます。
■：停止中

8 カウンタ情報表示
メニューでお好みの表示モード(経過時間／残り時間／録音日付／録音時刻)を選ぶことができます(111ページ)。

9 録音可能時間表示
録音可能時間を時間、分、秒で表示します。

10 トラックマーク表示
現在位置のトラックマーク番号が表示されます。トラックマークが設定されているときにだけ表示されます(97ページ)。

11 アラーム表示
ファイルにアラームが設定されているときに表示されます(88ページ)。

12 ファイル位置情報表示
選んだファイル番号が分子に、フォルダ内の総ファイル数が分母に表示されます。

13 録音モード／スリープタイマー表示
メニューで設定されている録音モードまたは、スリープタイマー設定が表示されます(49、113ページ)。

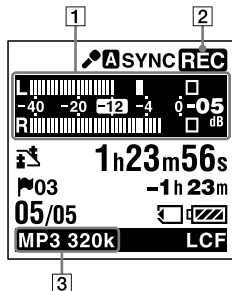
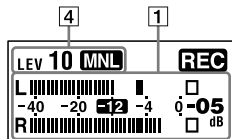
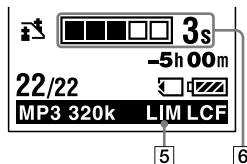
14 保護マーク
ファイルが保護設定されているときに表示されます(106ページ)。

15 メモリーカード表示
現在使用しているメモリーがメモリーカードのときにのみ表示されます。内蔵メモリーを使用中は何も表示されません(28ページ)。

16 LCF表示
メニューで「LCF(Low Cut)」が「オン」に設定されているときに表示されます。

17 電池マーク

録音時

- AGC録音時

- マニュアル録音時

- プリレコーディング実行時

1 レベルメーター表示
録音時、録音音量の目安に、入力されている音量のレベルと最適音量域を表示します（39ページ）。

2 動作モード表示
REC ：録音中
●II ：録音一時停止中

3 録音モード／スリープタイマー表示
（49、113ページ）

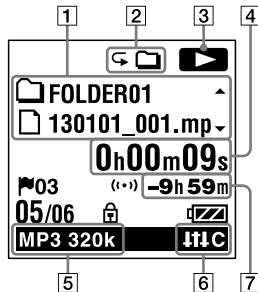
- 録音されているファイルの録音モードが表示されます。
LPCM 96/24、LPCM 44/16 ：リニアPCMファイル
MP3 48k 、MP3 128k 、MP3 192k 、
MP3 320k ：MP3ファイル
96/24･MP3、44/16･MP3 ：デュアルレコーディング

- スリープタイマーを設定すると録音モード表示部に SLEEP と表示されます。
（録音モード表示より優先表示されます。）

4 感度設定表示
MNL ：マニュアル
「マニュアル」選択時は録音レベルも表示されます。
OVER ：録音中にレベルがオーバーしているときに表示されます。

5 リミッター表示（マニュアル録音時のみ）
メニューで「リミッター」が「オン」に設定されているときに表示されます。

6 プリレコーディング蓄積時間表示
録音スタンバイ中のとき表示されます。

再生時

1 ファイル情報表示（72ページ）

2 再生モード表示（81ページ）

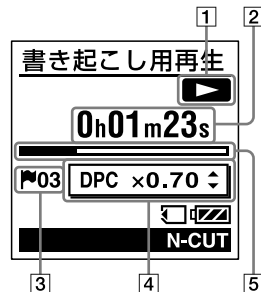
3 動作モード表示
▶ ：再生中
◀◀ ▶▶ ：早戻し／早送り再生中
|◀◀ ▶▶| ：連続ファイル戻し／送り

4 カウンタ情報表示（111ページ）

5 録音モード／スリープタイマー表示
（49、113ページ）

6 ノイズカット／エフェクト表示（73、79ページ）

7 録音可能時間表示

書き起こし再生時

1 動作モード表示
 ：再生中

2 カウンタ情報表示
再生経過時間が表示されます（111ページ）。

3 トラックマーク表示（97ページ）

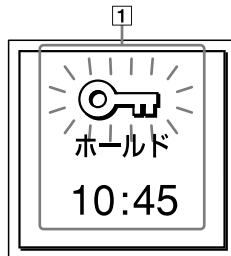
4 DPC速度表示
設定している再生スピードが表示されます。▲または▼を押して速度を調節できます（77ページ）。

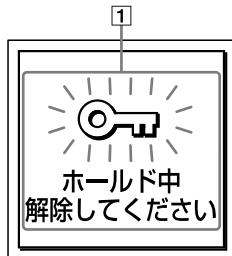
5 タイムラインバー
左端がファイルの開始点、右端がファイルの終了点を示し、再生した部分が黒く表示されます。

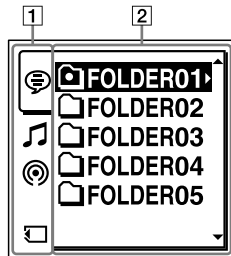
メニュー操作時

1 メニュータブ（108ページ）

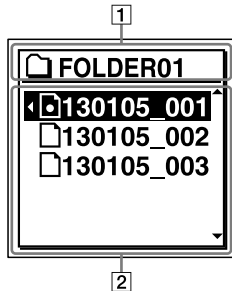
2 メニュー項目
選択したタブ内のメニューが表示されます（109ページ）。

ホールド時表示

1 ホールドオン時表示
電源・ホールドスイッチを「ホールド」の方向にスライドすると、「ホールド」と現在時刻が約3秒間表示されます（35ページ）。

ホールド中表示

1 ホールド中メッセージ表示
誤操作防止(ホールド)状態になっているときにボタン操作をすると、表示されます。すべてのボタン操作が無効になっています(35ページ)。

フォルダ選択時

1 タブ
録音可能エリア、再生専用エリア、メモリータイプを表示します(31ページ)。

2 フォルダ
選択したタブ内のフォルダが表示されます(30ページ)。

ファイル一覧表示時

1 フォルダ表示
フォルダアイコンとフォルダ名が表示されます（30ページ）。

2 ファイル一覧
フォルダに保存されているファイル名が一覧表示されます（30ページ）。

ファイル情報表示時

1 ファイル情報表示
ICレコーダーで録音したファイルを選択中は、停止中に ■ 停止ボタンを押すと、現在選択されているファイルの情報を約60秒間表示します。▲ または ▼ を押して、情報を切り換えることができます。

確認できる情報は以下のとおりです。

作成日時	ファイルの録音日時(年(y)月(m)日(d) ／時刻)を表示します。
ファイルの長さ	ファイルの再生時間を時間、分、秒で表示します。
録音した機器	録音した機器を表示します。メニューの「本体情報」の「型名」が表示されます。
シーン	録音時のシーン設定を表示します。
録音モード	録音時の録音モード設定を表示します。
感度設定	録音時の感度設定を表示します。
LCF(Low Cut)	録音時のLCF(Low Cut)機能の設定を表示します。
リミッター	録音時のリミッター機能の設定を表示します。
VOR	録音時のVOR機能の設定を表示します。
入力	録音時の入力を表示します。（内蔵ステレオマイク、内蔵ズームマイク、外部入力(MIC IN)、外部入力(Audio IN)）

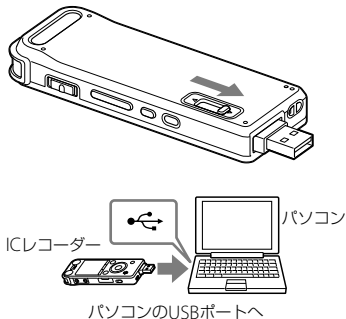
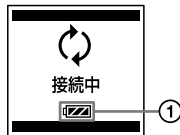
ヒント

- 操作しない状態で約60秒経過すると、停止画面に戻ります。すぐに停止画面に戻すには ■ 停止ボタンを押します。
- 「作成日時」、「ファイルの長さ」以外の項目は、お使いのICレコーダーで録音したファイルの場合のみ表示されます。

充電する

パソコンを使って充電する

1 ICレコーダーをパソコンにつなぐ。

裏面のUSB DIRECTつまみを矢印の方向へスライドして、USB端子を起動しているパソコンにつなぎます。 *1

充電中は、「接続中」と電池マーク(①)がアニメーション表示されます。

充電が完了すると、電池マークが「FULL」(②)と表示されます。

はじめてお使いになる場合や、しばらくお使いにならなかった場合は、電池マークが「FULL」になるまで連続して充電してください。

電池を使いきった状態から約4時間で充電が完了します。 *2

2 ICレコーダーをパソコンから取りはずす。

必ず下記の手順で取りはずしてください。この手順で行わないと、ICレコーダーにデータが入っている場合に、データが破損して再生できなくなるおそれがあります。

① アクセスランプが消えていることを確認する。

② パソコンで下記の操作を行う。

Windowsの場合：

タスクバー（パソコンの画面右下）にあるアイコンを左クリックしてください。

→[IC RECORDERの取り外し]（Windows 7、Windows 8）または、[USB大容量記憶装置 − ドライブを安全に取り外します]（Windows XP、Windows Vista）を左クリックしてください。

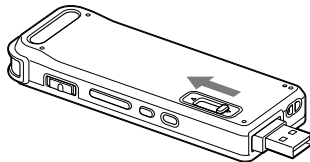
アイコン、メニューの表示はOSの種類によって異なる場合があります。

お使いのパソコンの設定によっては、タスクバーにアイコンが表示されない場合があります。

Macの場合：

Finderのサイドバーに表示されている「IC RECORDER」の取り外しアイコンをクリックしてください。

パソコンから取りはずす方法について詳しくは、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

③ ICレコーダーをパソコンのUSBポートからはずし、ICレコーダーのUSB DIRECTつまみを矢印の方向にスライドしてUSB端子を収納する。

*1 お使いのパソコンにICレコーダーを直接接続できない場合は、付属のUSB接続補助ケーブルをお使いください。

*2 室温で電池残量が無い状態から電池を充電したときの目安です。電池の残量や電池の状態などにより、前ページの充電時間と異なる場合があります。

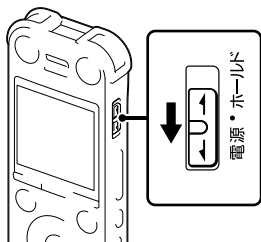
ご注意

起動していないパソコンに接続しても充電できません。また、パソコンが起動していても、休止状態（スタンバイ、スリープ）のときは充電できません。

USB ACアダプターを使って充電する

別売のUSB ACアダプター を使って充電することもできます（132ページ）。

電源を入れる

電源を入れる

画面が表示されるまで、電源・ホールドスイッチを「電源」の方向へスライドさせると、「アクセス中...」のアニメーションが表示され、電源が入ります。

電源を切る

「電源オフ」のアニメーションが表示されるまで、電源・ホールドスイッチを「電源」の方向へスライドさせると、電源が切れます。

ご注意

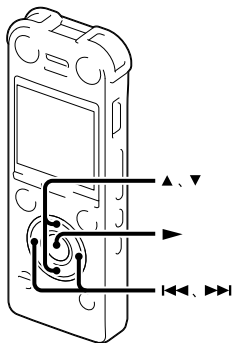
ファイル数が多いと、起動画面が長時間表示されることがありますが、故障ではありません。表示が消えるまでお待ちください。

ヒント

- 停止状態で操作をしないまま放置していると、「オートパワーオフ」機能が働きます。（お買い上げ時は、設定は10分になっています。）
- スリープタイマーが設定されているときは、設定時間になると自動的に電源が切れます。
- 最後に電源を切ってから4時間以内に再度電源を入れた場合は、すばやく起動します。

時計を合わせる

アラーム機能を使用したり、録音した日時を記録するためには、ICレコーダーの時計を合わせておく必要があります。

電池を充電後すぐに時計を合わせる

お買い上げのあと、時計が設定されていないときは、「時計を設定してください」のアニメーションが表示され、「時計を設定しますか？」の確認画面が表示されます。

1 「時計を設定しますか？」の表示中に、▲ または ▼ を押して、「はい」を選び、►ボタンを押す。

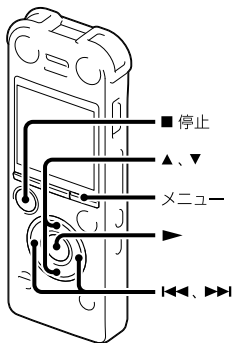
時計設定画面が表示され、年表示が点滅します。

2 年月日と時分を合わせる。

▲ または ▼ を押して、年の数字（西暦の下2桁の数字）を選び、►ボタンを押します。同じ手順で、月、日、時、分の順に設定します。
I◄◄ または ►►I を押すと、年、月、日、時、分を移動することができます。
「分」の数字を選び、►ボタンを押すと、設定が時計に反映されます。

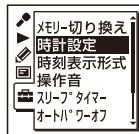
設定が完了すると停止画面に戻ります。

メニューを使って時計を合わせる

停止中にメニューを使って時計を合わせることができます。

1 メニュー画面で「時計設定」を選ぶ。

① メニューボタンを押してメニューモードに入る。
メニュー画面が表示されます。

② ⏮ を押した後、▲ または ▼ を押して 🧰タブを選び、►ボタンを押す。

③ ▲ または ▼ を押して、「時計設定」を選び、►ボタンを押す。

2 ▲または▼を押して「自動（対応ソフトと同期）」または「手動」を選び、►ボタンを押す。

「自動（対応ソフトと同期）」を選んだ場合：ICレコーダーをパソコンにつないでアプリケーションソフトSound Organizerを起動すると、パソコンの時計に自動的に合わせます。
「手動」を選んだ場合は次の手順に進んでください。

3 ▲または▼を押して、「13y1m1d」を選び、►ボタンを押す。

4 年月日と時分を合わせる。

▲または▼を押して、年の数字（西暦の下2桁の数字）を選び、►ボタンを押します。同じ手順で、月、日、時、分の順に設定します。

⏮ または ⏭ を押すと、年、月、日、時、分を移動することができます。「分」の数字を選び、►ボタンを押すと、「実行中」、次に「設定しました」と表示され、設定が時計に反映されます。

5 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意

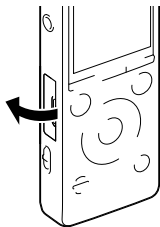
それぞれの手順の間を1分以上あけると、時計合わせがキャンセルされ、通常の表示に戻ります。

ヒント

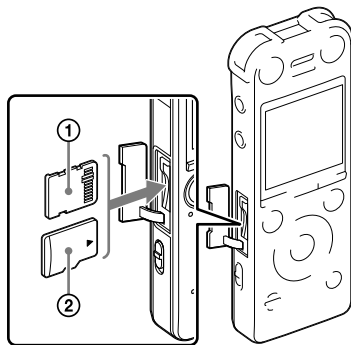
停止中にホールドにすると、現在時刻が表示されます。

メモリーカードを入れる

ICレコーダーでは、内蔵メモリーの他に、別売のメモリーカードに音声を記録できます。

1 停止中にメモリーカードスロットのカバーを開ける。

2 M2™またはmicroSDカードを、メモリーカードスロットに、カチッと音がするまでしっかり差し込み、カバーを閉める。

①：M2™の端子面を手前に

②：microSDのカードラベル面を手前に

3 メモリーカードスロットのカバーを閉める。

「メモリーカードに切り換えますか?」と表示されます。

ご注意

電源が入っていないときに操作をした場合は、メッセージが表示されません。電源を入れてから、フォルダ選択画面またはメニューでメモリーを切り換えてください(33ページ)。

4 ▲または▼を押して、「はい」または「いいえ」を選び、►ボタンを押す。

フォルダとファイルの構成について

内蔵メモリーのフォルダとは別に、メモリーカード内に5個のフォルダが作成されます。フォルダとファイルの構成は、内蔵メモリーとは異なります(119ページ)。

ご注意

- メモリーカードが認識されない場合はメモリーカードを取り出し、再度入れ直してください。
- メモリーカードスロットの挿入口には、液体・金属・燃えやすいものなど、メモリーカード以外のものは挿入しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 録音する前に、メモリーカードに保存されているデータをパソコンに保存し、ICレコーダーで初期化して空の状態にしてからお使いください(114ページ)。

ICレコーダーで使用できるメモリーカード

このICレコーダーでは、以下のメモリーカードをお使いになれます。

メモリーカード	対応
microSDカード(~ 2 GB)	○
microSDHCカード(4 GB ~ 32 GB)	○
microSDXCカード(64 GB以上)	×
M2™カード(~ 16 GB)	○

最新の動作確認済みメモリーカードについては、ICレコーダー サポート・お問い合わせページ
http://www.sony.jp/support/ic-recorder/
をご覧ください。

メモリーカードに記録・再生できるファイルのサイズはICレコーダーの仕様上、1ファイルにつきLPCMは2 GB未満、MP3/WMA/AAC-LCは1 GB未満です。

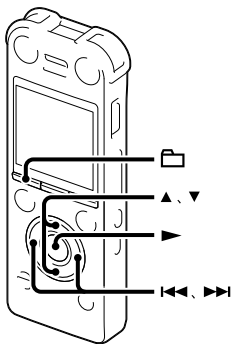
ご注意

対応仕様のメモリーカードでも、すべてのメモリーカードでの動作を保証するものではありません。

メモリーカードを取り出すには

メモリーカードを一度奥に押します。手前に出てきたら、メモリーカードスロットから取り出します。

フォルダ、ファイル、タブ、メモリーを選ぶ

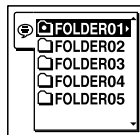
フォルダとファイルを選ぶ

録音、再生、編集するファイル、フォルダを選ぶことができます。

1 停止中／再生中に 🗀(フォルダ)ボタンを押す。

フォルダ選択画面が表示されます。

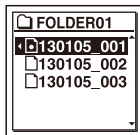
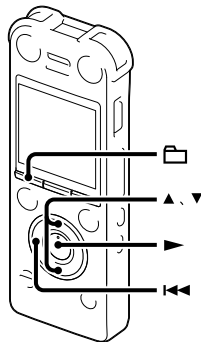
2 フォルダを選ぶ。

▲または▼を押してフォルダを選び、►ボタンを押します。

フォルダ内のファイル選択画面を表示するには、▲または▼を押してフォルダを選び、⏭を押します。

お買い上げ時には、FOLDER01 ～ 05の5個のフォルダが作成されています。

3 ファイルを選ぶ。

ファイル選択画面が表示されているときは、▲または▼を押して、ファイルを選び、►ボタンを押します。

停止画面が表示されているときは、⏮ または ⏭ を押してファイルを切り換えることができます。

タブを選ぶ

ICレコーダーで保存するフォルダは、録音可能エリアと再生専用エリアに分けて管理され、タブで表示されます。フォルダを選ぶときは、タブを切り換えることによりエリアを移動することができます。

1 🗀(フォルダ)ボタンを押す。

フォルダ選択画面が表示されます。

2 ⏮ を押した後、▲ または ▼ を押して タブ、タブ、タブ、タブのいずれかを選ぶ。

3 ►ボタンを押す。

選択したタブ内のフォルダ選択画面が表示されます。

4 フォルダ、ファイルを選ぶ（30ページ）。

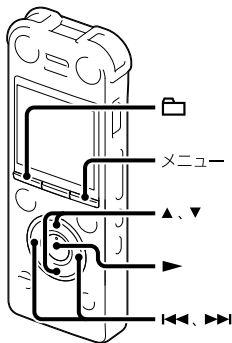
フォルダの種類により、フォルダアイコンが異なります。

：録音可能フォルダ
：再生専用フォルダ
：ポッドキャストフォルダ

お買い上げ時には、タブのみ表示されます。タブ、タブは、パソコンからファイルを転送すると表示されます（123、126ページ）。

タブは、ICレコーダーにメモリーカードを入れると表示されます（28ページ）。

(Voice)	録音可能エリア。ICレコーダーで録音したファイルを管理します。
(Music)	再生専用エリア。パソコンから転送した音楽ファイルを管理します。
(Podcast)	再生専用エリア。パソコンから転送したポッドキャストを管理します。
（内蔵メモリー）	ICレコーダーにメモリーカードを入れ、メニューの「メモリー切り換え」を「内蔵メモリー」にすると表示されます。
（メモリーカード）	ICレコーダーにメモリーカードを入れ、メニューの「メモリー切り換え」を「メモリーカード」にすると表示されます。

メモリーを切り換える

使用するメモリーを、内蔵メモリーとメモリーカード間で切り換えることができます。

フォルダ選択画面から切り換える

1 (フォルダ)ボタンを押す。
フォルダ選択画面が表示されます。

2 ⏮ を押した後、▲ または ▼ を押して、 または タブを選ぶ。
 (内蔵メモリー)または (メモリーカード)タブは、ICレコーダーにメモリーカードを入れると表示されます(28ページ)。

3 ►ボタンを押す。
メモリー選択画面が表示されます。

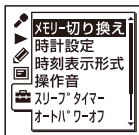
4 ▲ または ▼ を押して、「内蔵メモリー」または「メモリーカード」を選び、►ボタンを押す。

選択したメモリーのタブ(または)が表示されます。

5 停止画面に戻すには、■ 停止ボタンを押す。

ご注意
メモリーカードを取り出すと、自動的に内蔵メモリーが選択されます。

メニューから切り換える

1 メニュー → 🧰タブ → 「メモリー切り換え」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲または▼を押して、「内蔵メモリー」または「メモリーカード」を選び、►ボタンを押す。
「メモリーカード」を選んだ場合、メモリーカードがフォーマット済みの場合は手順5に進んでください。

3 メモリーカードを初期化していない場合は、メニュー →「🧰」タブ →「メモリー初期化」を選び、►ボタンを押して決定する。
「全てのデータを消去しますか？」と表示されます。

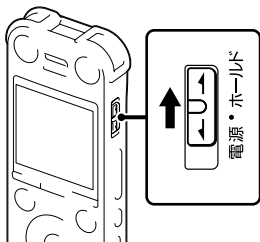
4 ▲または▼を押して、「実行」を選び、►ボタンを押して決定する。

5 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

誤操作を防止する — ホールド

ICレコーダーを持ち運ぶ際など、誤ってボタンが押されて動作するのを防ぐために、すべてのボタン操作を無効にすることができます（ホールド）。

ボタン操作をできなくするには

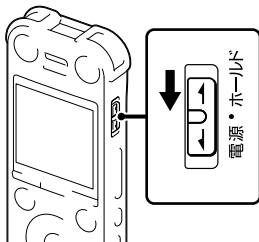
電源が入っているときにボタン操作をできなくするには、電源・ホールドスイッチを「ホールド」の方向にスライドします。

「ホールド」と現在時刻が約3秒間表示され、すべてのボタン操作が無効になります。

ヒント

時刻表示は、メニュー設定で、時刻表示形式（12時間、24時間）を切り換えることができます（113ページ）。
例：12:00（24時間表示）／ 12:00 PM（12時間表示）

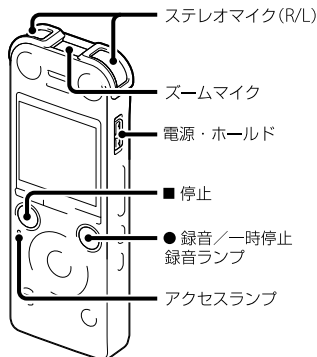
ボタン操作をできるようにするには

ホールドになっているときにボタン操作をすると、「ホールド中　解除してください」と表示されます。

ホールドを解除するには、電源・ホールドスイッチを中央位置にスライドします。

ホールド中でもアラーム再生は止められます

アラーム再生時、どのボタンを押してもアラーム音やファイル再生を止めることができます。（通常のファイル再生は停止できません。）

録音を始める

内蔵マイクで録音する — AGC録音

ここでは、基本的な録音操作の手順について説明します。設定した感度設定と録音モードで録音を行います(AGC録音)。

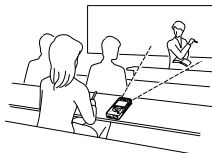
ヒント

録音をする前に、あらかじめためし録りするか、録音モニター (40ページ)をしながら録音することをおすすめします。

1 電源・ホールドスイッチを「電源」の位置にスライドして電源を入れる(24ページ)、または中央にスライドしてホールドを解除する(35ページ)。

停止画面が表示されます。

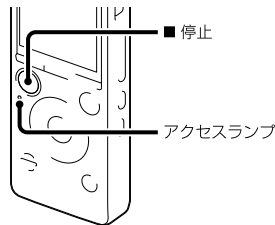
2 録音したいフォルダを選ぶ(30ページ)。

3 内蔵マイクを録音する音の方向へ向ける。

4 停止中に ● 録音／一時停止ボタンを押す。

録音ランプが赤く点灯します。
● 録音／一時停止ボタンは、録音中ずっと押し続ける必要はありません。
新しいファイルは自動的にフォルダの最終ファイルとして録音されます。

ご注意

- 録音中、ICレコーダーに手などがあたったり、こすったりすると雑音が録音されてしまうことがあります。ご注意ください。
- 録音の途中でファイルサイズの上限（LPCMは2GB、MP3は1GB）を超えてしまう場合は、ファイルを分割します。

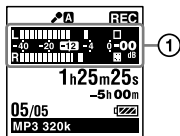
録音を止める

1 ■ 停止ボタンを押す。

アクセスランプがオレンジに点滅し、今録音したファイルのはじめで停止します。

アクセス中のご注意

アクセスランプがオレンジに点滅している間は、メモリーへ録音データを記録しています。アクセス中は、USB ACアダプター（別売）を抜き差ししないでください。データが破損するおそれがあります。

録音レベルのピークメーターについて

AGC録音中は、録音レベルガイド(①)が表示されます。

録音中の入力レベルは、ピークメーターで確認できます。図のように、−12dB付近を目安に、マイクの方向や音源からの距離を調節したり、マイクの感度を設定したり、シーンの設定を変更して音源に合った適切な範囲に調節してください。
マニュアル録音時はピークメーター部分の白と黒が反転します。

内蔵ステレオマイクで録音する場合

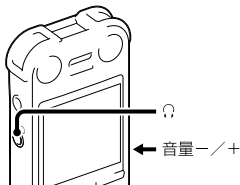
録音中に左右のマイクの入力レベルが表示されます。

内蔵ズームマイクで録音する場合

録音中に内蔵ズームマイクの入力レベルが表示されます。

ヒント

入力レベルが小さいときは、音源の近くに移動したり、感度設定を高く設定することをおすすめします。

録音中の音をモニターする

付属のステレオヘッドホンを ジャックにつなぐと、録音中の音をモニターすることができます。
ヘッドホンからの音量（モニター音量）は、音量－／＋ボタンを押して調節します。録音される音量に影響はありません。

ご注意
ヘッドホン使用時に、ヘッドホンコードがICレコーダーに触れると、擦れ音として録音されてしまう場合があります。あらかじめコードを固定しておくことをおすすめします。

その他の操作

録音を一時停止する*	● 録音／一時停止ボタンを押す。 録音一時停止中は録音ランプが赤く点滅し、●II（録音一時停止）表示が点滅します。
録音一時停止を解除する	もう一度 ● 録音／一時停止ボタンを押す。 先ほど録音していたファイルに続けて録音することができます。（録音一時停止後、録音を続けず、停止するときは、■ 停止ボタンを押します。）
今録音したばかりのファイルを聞く**	►ボタンを押す。 録音が解除され、今録音したファイルのはじめから聞くことができます。
早戻し（レビュー）再生する**	録音中または録音一時停止中に⏮ を長押しする。 録音が解除され、今録音したところが早戻し（レビュー）再生されます。⏮ を離すと、離したところから再生が始まります。

* 録音を一時停止して約1時間たつと、録音一時停止は解除され、録音停止になります。

** マニュアル録音時は操作できません。

ヒント

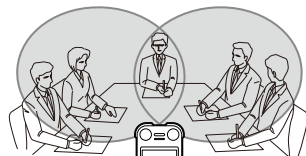
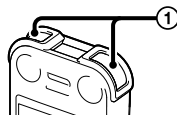
- Sound Organizerを使うと、新しいフォルダを作ったり、フォルダを消去することができます(125ページ)。
- ひとつのフォルダには最高199のファイルが録音できます。
- メモリーカードをお使いの場合、内蔵メモリーの残量がなくなると自動的にメモリーカードに切り換えて録音を行うことができます(クロスメモリー録音)。(69ページ)

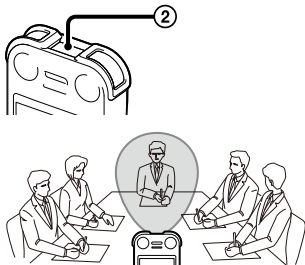
録音の設定を変える

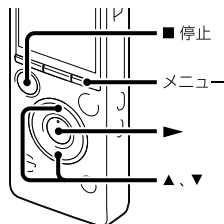
内蔵マイクの指向性と感度を切り換える
— 内蔵マイク設定

内蔵マイクの指向性について

内蔵マイクにはステレオマイクとズームマイクの2種類の特性があります。録音する状況によって、内蔵マイクの指向性を切り換えることができます。

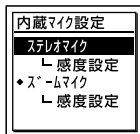
ステレオマイクを使う場合

ステレオマイクを使う場合は内蔵マイク(L/R)(①)を使って、左右の音を拾います。広がりのあるステレオ感が得られるため、会議や音楽録音などにおすすめです。

ズームマイクを使う場合

ズームマイク(②)を使う場合はマイクを向けた方向の音を中心に録音できます。ボイスメモやインタビュー録音など、特定の方向の音を録音する場合に便利です。ズームマイクを使用するときは、音声はモノラルで録音されます。

内蔵マイクを設定する

ICレコーダーが持つ2種類のマイク(ステレオマイクとズームマイク)のどちらを使うかを切り換えます。また、それぞれのマイクの感度設定を行うことができます。

1 停止中／録音中に、メニュー → タブ →「内蔵マイク設定」を選び、ボタンを押して決定する。

内蔵マイク設定画面が表示されます。

2 ▲または▼を押して使用する内蔵マイクを選び、►ボタンを押す。

内蔵マイクの切り換えのみを行い、感度設定を変更しない場合は、「ステレオマイク」または「ズームマイク」を選びます。 ►ボタンを押すと、使用するマイクが切り換わり、画面がメニュー表示に戻ります。（手順5へ）

マイク感度を変更する場合
「ステレオマイク」または「ズームマイク」の下の「感度設定」を選びます。 ►ボタンを押すと、感度設定画面が表示されます。（手順3へ）

3 ▲または▼を押して録音対象を選び、►ボタンを押す。

「ステレオマイク」の場合
「音声用」、「音楽用」または「マニュアル」から選びます。

「ズームマイク」の場合
「音声用」または「マニュアル」から選びます。

「音声用」または「音楽用」を選んだ場合は、手順4へ進み、感度を設定してください。
手動で録音レベルを調節してマニュアル録音するときは、「マニュアル」を選びます。
設定が完了し、「内蔵マイク設定」画面に戻ります。（手順5へ）

4 ▲または▼を押してお好みの感度設定を選び、►ボタンを押して決定する。

5 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ステレオマイクの感度設定

- **音声用**

オート*	録音レベルが適切になるように、マイク感度は自動的に設定されます。
高	広い会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。
中	会議室での録音やインタビューなど、通常の会話や打ち合わせの音声を録音するときに使用します。
低	口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。

* お買い上げ時の設定

- **音楽用**

高(音楽)	少人数でのコーラスや小さい音、楽器から離れての録音に適しています。
低(音楽)*	大きな音のバンド練習やカラオケなどの録音に適しています。

* お買い上げ時の設定

- **マニュアル**

録音レベルをお好みに設定して録音できます。

ズームマイクの感度設定

- **音声用**

ズーム3	広い会議室などで遠くの小さな声にズームして録音する場合などに使用します。
ズーム2*	インタビューなどで相手の声を録音するときに使用します。
ズーム1	口述録音など、マイクを口元に近づけて録音するときに使用します。

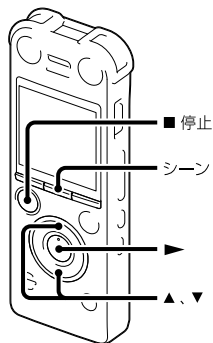
* お買い上げ時の設定

- **マニュアル**

録音レベルをお好みに設定して録音できます。

ご注意

- シーンセレクト設定時は、設定できません。シーンセレクトをオフにしてから操作してください。
- 外部マイクや他の機器をマイクジャックにつないだときは、内蔵マイク設定は無効になります。

用途に合わせた録音シーンを選ぶ

さまざまな録音シーンに合わせて、録音モード（49ページ）や感度設定（45ページ）などの録音に必要な項目を、一括でおすすめの設定に切り換えることができます（シーンセレクト機能）。「Myシーン1」、「Myシーン2」にはお好みの設定を保存できます。

シーンセレクト機能の設定を「シーンセレクトオフ」にした状態で、あらかじめ録音に関するメニュー（「録音モード」、「内蔵マイク設定」*または「外部入力設定」*、「LCF(Low Cut)」、「リミッター」、「VOR」）をお好みの設定に調整してから、操作を行ってください。

* シーンセレクト機能では「内蔵マイク設定」または「外部入力設定」のどちらかで設定されている設定値（入力の種類および感度設定）を使用します。

1 停止中にシーンボタンを押す。

2 ▲ または ▼ を押して、お好みのシーンを選び、►ボタンを押す。

3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

シーンセレクトオフ*	シーンセレクト機能をオフにします。
(おまかせボイス)	音声全般を録音するときに適しています。
(会議)	広い会議室での録音など、幅広い用途に適しています。
(講演)	講演会や講義を録音するときに適しています。
(ボイスメモ)	マイクを口元に近づけて録音するときに適しています。
(インタビュー)	インタビューや少人数での会議、打ち合わせなど、1 ～ 2mくらいの距離で人の声を録音するときに適しています。
(音楽)	合唱の練習やアコースティックギター、ピアノ、バイオリンなどの楽器の音を2 ～ 3 mくらいの距離で録音するときに適しています。
S1 (Myシーン1)	録音モード、感度設定などをお好みに合わせて編集することができます。
S2 (Myシーン2)	録音モード、感度設定などをお好みに合わせて編集することができます。

* お買い上げ時の設定

ご注意

「おまかせボイス」は人の声(音声)に特化した設定項目ですが、くしゃみや静かな会話からの急な笑い声など、突発的な大きな音が入力された場合は、音がひずむことがあります。

シーンセレクト機能の録音設定について

それぞれのメニュー、設定項目について詳しくは43 ～ 63ページをご覧ください。

	(おまかせボイス)	(会議)	(講演)	(ボイスメモ)
録音モード	MP3 192 kbps	MP3 192 kbps	MP3 192 kbps	MP3 128 kbps
内蔵マイク設定	ステレオマイクー音声用－ A オート	ステレオマイクー音声用－ 中	ズームマイクー音声用－ Z ズーム3	ズームマイクー音声用－ Z ズーム1
LCF(Low Cut)	オン	オン	オン	オン
リミッター	オフ	オフ	オフ	オフ
VOR	オフ	オフ	オフ	オフ

	(インタビュー)	(音楽)	(Myシーン1)*	(Myシーン2)*
録音モード	MP3 192 kbps	LPCM 44.1kHz/ 16bit	LPCM 44.1kHz/ 16bit	LPCM 44.1kHz/ 16bit
内蔵マイク設定	ズームマイク－音声用－ズーム2	ステレオマイク－音楽用－低〈音楽〉	ステレオマイク－マニュアル	ステレオマイク－マニュアル
LCF(Low Cut)	オン	オフ	オフ	オフ
リミッター	オフ	オフ	オン	オン
VOR	オフ	オフ	オフ	オフ

* お買い上げ時の設定

ご注意

「内蔵マイク設定」は、選択中のいずれかの設定の初期値を記載しています。

お好みの録音設定をMyシーンに登録する

「Myシーン1」または「Myシーン2」にはお好みの設定を保存できます。

1 シーンボタンを押して、シーン選択画面を表示し、「シーンセレクトオフ」を選ぶ。

2 録音に関するメニューをお好みに設定する。

停止中にメニュー → タブを選びます。「録音モード」、「内蔵マイク設定」／「外部入力設定」、「LCF(Low Cut)」、「リミッター」、「VOR」のメニュー項目を設定することができます。

3 シーンボタンを押して、シーン選択画面を表示し、「Myシーン1」または「Myシーン2」を選ぶ。

4 ▲または▼を押して、「登録」を選び、►ボタンを押す。

「現在の録音設定を登録しますか？」と表示されます。

5 ▲または▼を押して、「実行」を選び、►ボタンを押す。

現在の録音設定が登録されます。

ヒント

「Myシーン1」または「Myシーン2」の設定値は、タブの「設定初期化」を実行するとお買い上げ時の設定に戻ります。

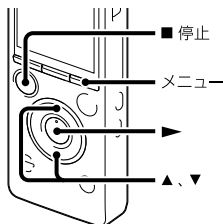
録音モードを変更する

音質を設定する（録音モード）

録音するファイルの録音モード（音質など）を設定します。録音を始める前に設定してください。

ヒント

1つの音源をLPCMとMP3、2つのファイルに同時に録音することもできます（デュアルレコーディング機能）。

1 停止中にメニュー → 🎤タブ → 「録音モード」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲ または ▼ を押してお好みの録音モードを選び、►ボタンを押す。

3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

音質などを設定します。

デュアルレコーディング	LPCMとMP3のそれぞれの録音モードを選択します。
LPCM 96kHz/24bit	非圧縮ステレオ高音質録音（LPCM 44.1kHz/16bitより高音質で録音できます。）
LPCM 44.1kHz/16bit	非圧縮ステレオ高音質録音（CD同等音質）
MP3 320kbps*	ステレオ高音質録
MP3 192kbps	ステレオ標準録音
MP3 128kbps	ステレオ長時間録音
MP3 48kbps(MONO)	モノラル標準録音

* お買い上げ時の設定

ご注意

シーンセレクト設定時は、設定できません。シーンセレクトをオフにしてから操作してください。

1つの音源を2つのファイルに録音する — デュアルレコーディング機能

1度の録音で、LPCM形式とMP3形式の2種類のファイルを作成することができます。

ご注意

デュアルレコーディングすると録音できるファイルの最大数を超えてしまう場合は、録音を開始できません。

1 停止中にメニュー → タブ → 「録音モード」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲または▼を押して「デュアルレコーディング」の下の「編集」を選び、ボタンを押す。

3 ▲または▼を押して「LPCM」を選び、►ボタンを押す。

4 ▲または▼を押してお好みのビットレートを選び、►ボタンを押す。

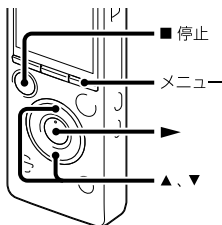
►ボタンを押すと、1つ前の画面に戻ります。

5 ▲または▼を押して「MP3」を選び、►ボタンを押し、手順4と同様にビットレートを設定する。

6 ▲または▼を押して「編集完了」を選び、►ボタンを押す。

7 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意
- 録音の途中でいずれかのファイルがファイルサイズの上限（LPCMは2GB、MP3は1GB）を超えてしまう場合は、同じタイミングでファイルを分割して録音します。
- ファイル名は録音開始は、同じ名前で録音されますが、録音の途中でファイルが分割された場合、別の名前になることがあります。

個別の録音設定項目を変更する

録音するファイルの外部入力時の感度、LCF(Low Cut)、リミッターを設定することができます。
録音を始める前に設定します。

ご注意
シーンセレクト設定時は、設定できません。「シーンセレクト」を「オフ」にしてから操作してください。

1 停止中にメニュー → 🎤タブを選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲ または ▼ を押して、変更したい項目を選び、►ボタンを押す。
設定を変更します。

3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

外部入力設定

（マイク）ジャックにつないだ外部マイク（「MIC IN」）、または音声出力端子のある外部機器（「Audio IN」）から録音するときに、それぞれの録音対象（音声用、音楽用）に合わせて、録音レベルが最適になるように感度設定を行います。

「MIC IN」で「音声用」を選んだとき

オート*	録音レベルが適切になるように、マイク感度は自動的に設定されます。
高	広い会議室での録音など、遠くの音や小さい音を録音するときに使用します。
中	会議室での録音やインタビューなど、通常の会話や打ち合わせの音声を録音するときに使用します。
低	口述録音など、マイクを口元に近づけて録音したり、近くの音や大きい音を録音するときに使用します。

* お買い上げ時の設定

「MIC IN」で「音楽用」を選んだとき

高〈音楽〉	少人数でのコーラスや小さい音、楽器から離れての録音に適しています。
低〈音楽〉*	大きな音のバンド練習やカラオケなどの録音に適しています。

* お買い上げ時の設定

「MIC IN」で「マニュアル」を選んだとき

録音レベルをお好みに設定して録音できます。

「AUDIO IN」で「感度設定」を選んだとき

高	つないだ機器側の出力レベルが低い場合に選びます。
低	つないだ機器側の出力レベルが高い場合に選びます。
MNL マニュアル*	録音レベルをお好みに設定して録音できます。

* お買い上げ時の設定

ご注意

シーンセレクト設定時は、設定できません。シーンセレクトをオフにしてから操作してください。

LCF(Low Cut)

LCF（Low Cut Filter）機能を設定して、低い周波数の音をカットし、プロジェクターなどのノイズや風切り音を軽減することで音声をよりクリアに録音できます。

オン	LCF機能を有効にします。
オフ*	LCF機能を無効にします。

* お買い上げ時の設定

ご注意

シーンセレクト設定時は、設定できません。シーンセレクトをオフにしてから操作してください。

リミッター

マニュアル録音時に突発的な大音量が入力した場合、音のひずみを防ぐために入力を自動的に調節します。

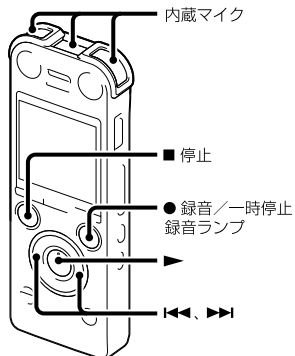
オン*	リミッター機能を有効にします。
オフ	リミッター機能を無効にします。

* お買い上げ時の設定

ご注意

「内蔵マイク設定」または「外部入力設定」内の「感度設定」が「マニュアル」に設定されているときに有効です。

便利な録音方法

マニュアル録音する

メニューの「内蔵マイク設定」または「外部入力設定」の各項目の「感度設定」を「マニュアル」に設定すると、音源の状態に合わせて録音レベルを手動で調節することができます。

また、必要に応じて「リミッター」の設定をすることにより、音割れなどの症状を低減することができます。

1 次のいずれの場合の設定を行う。

内蔵のステレオマイクで録音する場合

メニュー → 「内蔵マイク設定」 → 「ステレオマイク」の「感度設定」－「マニュアル」を選ぶ。

内蔵のズームマイクで録音する場合

メニュー → 「内蔵マイク設定」 → 「ズームマイク」の「感度設定」－「マニュアル」を選ぶ。

外部マイクで録音する場合

メニュー → 「外部入力設定」 → 「MIC IN」の「感度設定」－「マニュアル」を選ぶ。

外部機器から録音する場合

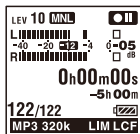
メニュー → 「外部入力設定」 → 「Audio IN」の「感度設定」－「MNL マニュアル」を選ぶ。

2 フォルダを選ぶ。

詳しくは「フォルダを選ぶ」(30ページ)をご覧ください。

3 内蔵マイクを録音する音の方向へ向ける。

4 ● 録音／一時停止ボタンを長押しする。

録音スタンバイ状態になります。マイクの音が入ると、表示窓のレベルメーターが動きます。

5 ⏮ または ⏭ を押して、音源の状態に合わせて、録音レベルを調節する。

録音レベルは、表示窓のピークメーターで確認できます。–12dBを目安に、音源にあった適切な範囲に調節します(①)。

録音レベルが大きすぎるときは、表示窓に OVER(②)が表示され、ピークランプが点灯します。音がひずみますので、OVER とピークランプが消えるまで ⏮ を押して録音レベルを下げてください。

⏮ または ⏭ を押し続けると、連続して録音レベルを変えることができます。

録音レベルはレベルメーターの右側に数字でも表示されます。

6 録音状態に合わせた設定をする。

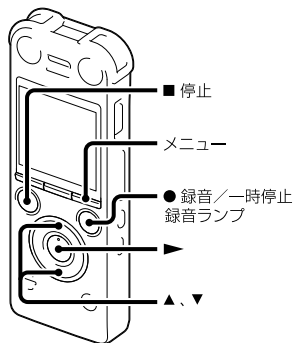
メニュー項目で、必要に応じて「リミッター」の設定をします。

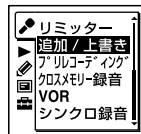
7 録音を始めるには、● 録音／一時停止ボタンを押す。

8 ■ 停止ボタンを押して録音を止める。

ご注意

- マニュアル録音時は、VOR録音はできません。
- マニュアル録音中は、►ボタンを押しても、今録音したばかりのファイルを聞くことはできません。

録音済みのファイルに追加録音する

メニューで追加録音を選んで、ファイルを再生中にそのファイルに追加して録音することができます。再生中のファイルの最後に再生中のファイルの一部として追加されます。
あらかじめ、追加録音したいファイルを選んでください。

1 停止中にメニュー → 🎤タブ → 「追加/上書き」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲ または ▼ を押して、「追加」を選び、►ボタンを押す。

お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。

3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

4 追加されるファイルを再生中に ● 録音／一時停止ボタンを押す。

「追加録音しますか？」が表示されます。

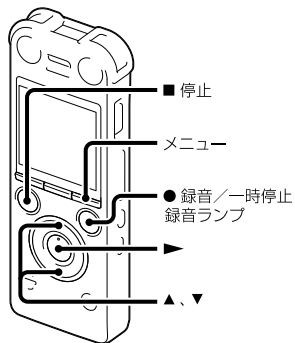
5 手順4のメッセージが表示されている間に、● 録音／一時停止ボタンを押す。

録音ランプが赤に変わって、録音が始まります。

6 ■ 停止ボタンを押して録音を止める。

ご注意

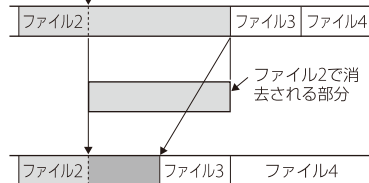
- ファイルがファイルサイズの上限（LPCMファイルの場合は2GB、MP3ファイルの場合は1GB）を超えているときは、追加録音はできません。
- LPCMファイルやMP3ファイルで、ICレコーダーで録音していないものには、追加録音できません。また、アプリケーションソフトSound Organizerを使ってファイルを編集すると、追加録音ができなくなる場合があります。
- 追加録音分は、追加するファイルと同じ録音モードで録音されます。
- 手順4で ● 録音／一時停止ボタンを押してからもう一度押すまでに10分以上経過してしまったら、手順4からやり直してください。
- プリレコーディング機能はお使いになれません。
- シンクロ録音を使用中は、追加録音はできません。

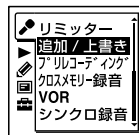
録音済みのファイルの途中から上書き録音する

メニューで上書き録音を選んで、ファイルの中の指定した場所から、新しい音声で上書き録音できます。すでに録音してあった部分は消去されます。
あらかじめ、上書き録音したいファイルを選んでください。

上書き録音を始めたい場所

ファイル2 | ファイル3 | ファイル4

ファイル2で消去される部分

ファイル2 | ファイル3 | ファイル4

ファイル2に上書き録音された部分

1 停止中にメニュー → 🎤タブ → 「追加/上書き」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲または▼を押して、「上書き」を選び、►ボタンを押す。

お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。

3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

4 ファイルを再生し、上書きしたい位置で ● 録音／一時停止ボタンを押す。

「上書き録音しますか？」が表示されます。

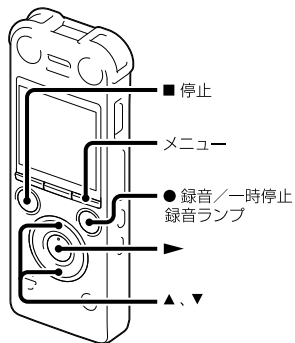
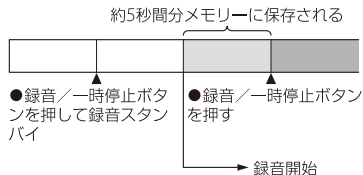
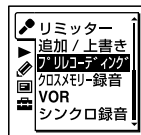
5 手順4のメッセージが表示されている間に、● 録音／一時停止ボタンを押す。

録音ランプが赤に変わって、録音が始まります。

6 ■ 停止ボタンを押して録音を止める。

ご注意

- MP3ファイルの場合、ファイルがファイルサイズの上限（1GB）を超えているときは、上書き録音はできません。ただし、LPCMのファイルの場合は、ファイルがファイルサイズの上限（2GB）を超えているときでも、上書き録音の位置が先頭からファイルサイズの上限を超えていなければ、上書き録音ができます。
- LPCMファイルやMP3ファイルで、ICレコーダーで録音していないものには、上書き録音できません。また、アプリケーションソフトSound Organizerを使ってファイルを編集すると、上書き録音ができなくなる場合があります。
- 上書き録音分は、上書きするファイルと同じ録音モードで録音されます。
- 手順4で ● 録音／一時停止ボタンを押してからもう一度押すまでに10分以上経過してしまったら、手順4からやり直してください。
- プリレコーディング機能はお使いになれません。
- シンクロ録音を使用中は、上書き録音はできません。

少し前から録音する — プリレコーディング機能

● 録音／一時停止ボタンを押す約5秒前の音から録音を開始することができます。インタビューや野外録音など、急な録音機会を逃したくない場合に便利です。

1 停止中にメニュー → 🎤タブ →「プリレコーディング」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲ または ▼ を押して、「オン」を選び、►ボタンを押す。

お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

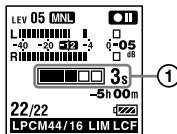
3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

4 フォルダを選ぶ。

詳しくは「フォルダとファイルを選ぶ」(30ページ)をご覧ください。

5 ● 録音／一時停止ボタンを長押しする。

録音スタンバイ状態になります。

プリレコーディングが開始され、最大5秒前の音声を蓄積していきます。(① には蓄積した時間が表示されます。)

6 録音を始めるには、● 録音／一時停止ボタンを押す。

録音スタンバイが解除され、手順5で蓄積した音声から継続して録音を開始します。

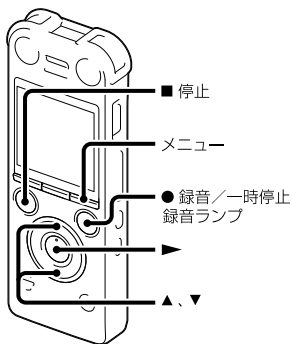
7 録音を止めるには、■ 停止ボタンを押す。

ご注意

- 内蔵マイクを使ってプリレコーディングをしようとすると、録音／一時停止ボタンを押すときに雑音が入る場合があります。プリレコーディングをする場合は外部マイクを使って録音することをおすすめします。
- 録音可能時間が10秒未満になるとプリレコーディングはできません。不要なファイルを消去してから行ってください。
- 手順5の録音スタンバイ状態が60分以上続くと、スタンバイ状態が解除され、録音停止になります。
- 手順6を行う前に録音を停止した場合、メモリーに蓄積されたプリレコーディングした音声は保存されません。

ヒント

プリレコーディング機能を解除するには、手順2で「プリレコーディング」を「オフ」にします。

音がしたとき自動録音する —VOR (Voice Operated Recording)録音

ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さくなると録音が一時停止するように、メニューで設定することができます。

1 メニュー → タブ → 「VOR」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲ または ▼ を押して、「オン」を選び、►ボタンを押す。

お買い上げ時は、「オフ」設定になっています。

3 ■ 停止 ボタンを押して、メニューモードを終了する。

4 ● 録音／一時停止ボタンを押す。

VOR REC が表示されます。

マイクで拾う音が一定レベル以下まで小さくなると、**VOR** ●II（録音一時停止）が点滅して、VOR録音が一時停止状態になります。
VOR録音一時停止状態のときに、マイクが一定レベル以上の大きさの音を拾うと、VOR録音が再開されます。

VOR録音を解除するには

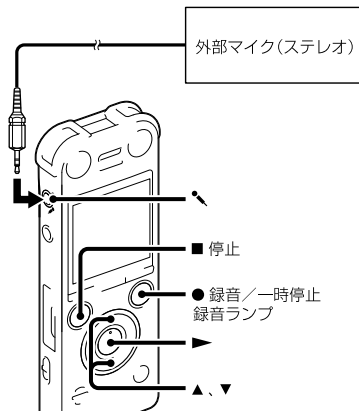
手順2で「VOR」を「オフ」にします。

ご注意

- VOR機能は周囲の環境に左右されます。状況に合わせて感度設定を切り換えてください。感度設定を切り換えても思いどおりに録音できないときや、大切な録音をするときは、メニューで「VOR」を「オフ」に設定してください。
- マニュアル録音中（54ページ）、プリレコーディング中（60ページ）、シンクロ録音中（66ページ）はVOR機能は働きません。
- 「VOR」の設定を変更する場合は、あらかじめ タブの「シーンセレクト」を「オフ」に設定してください。

録音する

接続して録音する

外部マイクをつないで録音する

1 停止中に外部マイクを ジャックにつなぐ。

画面に「外部入力設定」が表示されます。
「外部入力設定」が表示されない場合にはメニューで設定してください。

2 ▲ または ▼ を押して、「MIC IN」を選び、►ボタンを押す。

3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

MIC IN*	マイクジャックに外部マイクをつないだときに選びます。
Audio IN	マイクジャックにオーディオコードなど、外部マイク以外のものをつないだときに選びます。

* お買い上げ時の設定

4 ● 録音／一時停止ボタンを押す。

内蔵マイクは自動的に切れ、外部マイクの音を録音します。

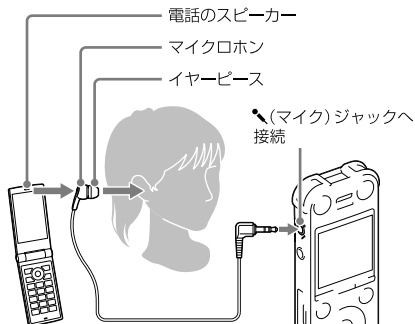
入力レベルが適正ではない場合は、メニューの「外部入力設定」で「MIC IN」の「感度設定」を変更してください。

プラグインパワー対応のマイクを使うと、マイクの電源はICレコーダーから供給されます。

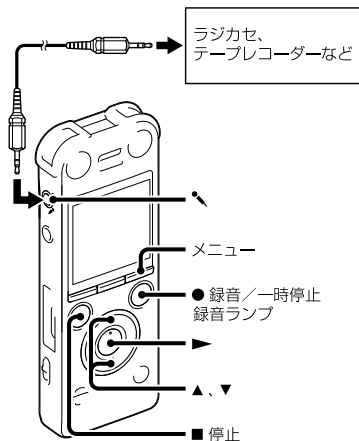
手順2で「MIC IN」の「感度設定」を行うこともできます。

電話機や携帯電話の音声を録音する

別売のECM-TL3を使うと、電話機や携帯電話での自分と相手の声を録音することができます。

ICレコーダーの（マイク）ジャックにECM-TL3をつなぎ、電話のスピーカーをマイクロホンに当ててください。

ご注意

- 録音する場合には、本機と接続後、通話状態と録音レベルをご確認の上ご使用ください。
- 呼び出し音、発信音を録音した場合、会話が小さい音で録音されることがあります。そのような場合には、通話状態になってから本機を録音状態にしてください。
- 電話機の種類、回線の状況によってVOR機能（62ページ）が働かないことがあります。
- 本機を使って通話録音をした場合、万一、これらの不都合により録音されなかった場合は、一切の責任を負いません。

他の機器の音声を録音する

ラジカセ、テープレコーダーなど、他の機器の音声／音楽をICレコーダーに録音することによって、パソコンを使わなくても、音楽ファイルを作成することができます。

ヒント

入力レベルが適正ではない場合は、他の機器のヘッドホン端子（ステレオミニジャック）を使ってICレコーダーと接続し、ICレコーダーの録音レベルガイドを確認しながら、他の機器の音量を調節するか、メニューの「外部入力設定」で「Audio IN」の「感度設定」を変更してください。

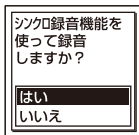
シンクロ録音機能を使って録音する

2秒以上無音の部分が続いた場合、録音は一時停止状態になり、次に音を感知したところから新しいファイルとして録音します。

1 停止中に他の機器をICレコーダーの 🎤 ジャックにつなぐ。

他の機器の音声出力端子（ステレオミニジャック）を別売のソニー製オーディオコード（90ページ）を使って、ICレコーダーの 🎤 ジャックにつなぎます。
画面に「外部入力設定」が表示されます。
「外部入力設定」が表示されない場合にはメニューで設定してください（64ページ）。

2 ▲または▼を押して、「Audio IN」を選び、►ボタンを押す。

「シンクロ録音機能を使って録音しますか？」と表示されます。

3 ▲または▼を押して、「はい」を選び、►ボタンを押す。

シンクロ録音が「オン」に設定されます。
お買い上げ時は「オフ」に設定されています。

4 ● 録音／一時停止ボタンを押す。

SYNC ●II が点滅してシンクロ録音が一時停止の状態になります。

5 つないだ機器で再生を始める。

SYNC REC が表示され、シンクロ録音が開始されます。

2秒以上無音の部分が続くと、「分割中」の表示が出たあと、SYNC ●II が点滅して、シンクロ録音が一時停止状態になります。シンクロ録音一時停止状態のときに、次に音を感知したところから新しいファイルとして、シンクロ録音が再開されます。

ご注意

- ドライブ内またはフォルダ内の最大ファイル数に達してしまった場合は、2秒以上の無音状態が続いてもファイルを分割せずに1つのファイルとして録音されます。
- シンクロ録音中は、録音一時停止やプリレコーディング、VOR録音、クロスメモリー録音、トラックマーク登録はできません。
- ご使用の機器によっては、音声入力レベルの違いなどによりシンクロ録音機能が正常に動作しない場合があります。

ヒント

- シンクロ録音は、メニュー → タブ → 「シンクロ録音」で設定することもできます。
- 手順2で「Audio IN」の「感度設定」を行うこともできます。

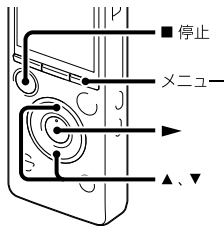
シンクロ録音機能を使わずに録音するには

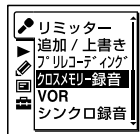
「シンクロ録音機能を使って録音する」の手順3で「いいえ」を選び、手順4、5に従ってつないだ機器から録音を行います。
手順4で、● 録音／一時停止ボタンを押すと、内蔵マイクは自動的に切れ、つないだ機器の音声が録音されます。

録音を止めるには

■ 停止ボタンを押してください。

メモリーカードに録音する

メモリーを切り換えて録音を続ける — クロスメモリー機能

内蔵メモリーまたはメモリーカードの残量が録音途中でなくなった場合でも、自動的にもう一方のメモリーに切り換えて録音を続けることができます。(クロスメモリー機能)

1 停止中にメニュー → 🎤タブ → 「クロスメモリー録音」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲ または ▼ を押して、「オン」を選び、►ボタンを押す。

お買い上げ時は、「オフ」に設定されています。

3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

録音中にメモリーがいっぱいになると

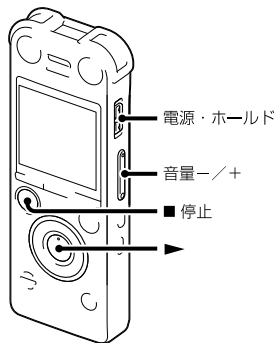
表示窓に「メモリーを切り換えて録音を継続します」というアニメーションが表示され、もう一方のメモリーの録音可能な番号の若いフォルダに、新しいファイルとして続いて録音されます。
新しいファイルは、新しいファイル名で作成されます。

通常の録音に戻すには

手順2で「オフ」を選びます。

ご注意

- 切り換え先のメモリーもいっぱいで録音できないときは、メッセージが表示され、録音が停止します。
- クロスメモリー録音で録音されたファイルを再生しても、自動的に移動先のファイルは続けて再生されません。
- クロスメモリー録音をする場合、ICレコーダーのメモリーを「メモリーカード」に切り換えができることをあらかじめ確認してください。
- 録音中にICレコーダーにメモリーカードを挿入しても、クロスメモリー録音は行われません。
- クロスメモリー録音で録音した場合、メモリー切り換え後の音声の一部で音切れする場合があります。

再生を始める

1 電源・ホールドスイッチを「電源」の位置にスライドして電源を入れる(24ページ)、または中央にスライドしてホールドを解除する(35ページ)。

停止画面が表示されます。

2 再生したいファイルを選ぶ(30ページ)。

ファイルを選ばない場合は、録音したばかりのファイルが再生されます。

3 ►ボタンを押す。

再生が始まります。

4 音量－／＋ボタンを押して、音量を調節する。

再生を止める

■ 停止ボタンを押す。

その他の操作

再生の途中、その位置で停止する	►ボタンを押す。 もう一度 ►ボタンを押すと、止めたところから再生が始まります。
今聞いているファイルの頭に戻る	⏮ を短く1回押す。*1*2
前のファイル、さらに前のファイルに戻る	⏮ を短く何回か押す。 （停止中は押したままにすると、連続して戻ります。*3）
次のファイルに進む	⏭ を短く1回押す。*1*2
さらに次のファイルに進む	⏭ を短く何回か押す。 （停止中は押したままにすると、連続して進みます。*3）
聞きながら早送りする（キュー）	再生中に ⏭ を押したままにして、聞きたいところで離す。
聞きながら早戻しする（レビュー）	再生中に ⏮ を押したままにして、聞きたいところで離す。

*1 トラックマークが設定されている場合は、前後のトラックマークの位置まで戻り、または進みます（97ページ）。

*2 メニュー「イージーサーチ」が「オフ」に設定されている場合の操作です（84ページ）。

*3 トラックマークには止まりません。

曲情報を切り換える

停止／再生中に ▲ または ▼ を押してファイルの曲情報を切り換えて確認することができます。
ICレコーダーで録音されたファイルは、下記のように表示されます。

：フォルダ名を表示：FOLDER01 ～ FOLDER05（パソコンからコピーしたフォルダの場合は「」が表示されます。）

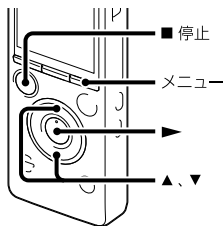
：ファイル名を表示：年月日_番号.拡張子（例：130101_001.mp3）

：アーティスト名を表示：My Recording

：タイトル名を表示：年月日_番号（例：130101_001）

再生時レベルメーターを表示

再生の設定を変える

再生音の雑音を低減して音声を聞きやすくする — ノイズカット機能

再生時にノイズカット機能を有効に設定すると、音声以外の周辺ノイズをカットします。音声帯域を含むすべての周波数帯域のノイズを低減するため、クリアな音質で再生することができます。

1 停止中／再生中に、メニュー → ▶ タブ →「ノイズカット」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲ または ▼ を押して、「オート」、「強」または「弱」を選び、►ボタンを押す。

3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

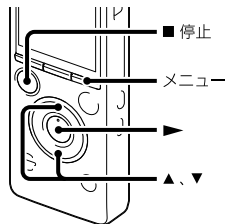
ノイズカットを設定すると、画面には N-CUT が表示されます。

ノイズカットを解除するには

手順2で「オフ」を選択します。

オフ*	ノイズカット機能を解除します。
オート	録音したシーン設定に応じて自動的にノイズカットを有効にします。
強	ノイズカットレベルを強くします。
弱	ノイズカットレベルを弱くします。「強」にして音声が聞き取りにくいときに選びます。

* お買い上げ時の設定

小さな音も聞きやすい大きさで再生する — デジタルボイスアップ機能

メニューで「ボイスアップ」を「強」または「弱」に設定することによって、聞き取りにくい小さな音も聞きやすい大きさに自動調節して再生することができます。

1 停止中／再生中に、メニュー → ▶ タブ → 「ボイスアップ」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲または▼を押して、「強」または「弱」を選び、►ボタンを押す。

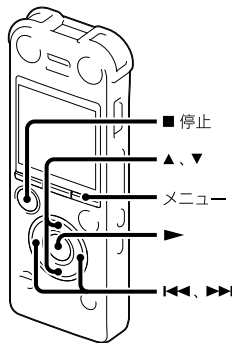
3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

オフ*	ボイスアップ機能を無効にします。
強	ボイスアップ機能の効果を大きくします。
弱	ボイスアップ機能の効果を小さくします。

* お買い上げ時の設定

デジタルボイスアップ機能を解除するには

手順2で「ボイスアップ」を「オフ」にします。

録音を書き起こす — 書き起こし用再生

録音した1つのファイルを早送り/早戻ししながら聞きたい箇所を探したり、デジタルピッチコントロール（DPC）で速度調節しながら再生することができます。議事録等を書き起こすときに便利なモードです。

1 停止中に、メニュー → ▶ タブ →「書き起こし用再生」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ►ボタンを押して再生を開始する。

書き起こし用再生中は次の機能を使用して、再生音を調節することができます。

- DPC：再生速度を変更して聞き取りやすくすることができます。 DPC (速度)/KEY CTRLスイッチを「入」にして、▲ または ▼ を押して速度を調節します。
- イージーサーチ：⏮/⏭ を押して聞きたいところをすばやく探すことができます。
- キュー・レビュー：⏮/⏭ を押したままにして早戻し/早送りし、聞きたいところを探すことができます。

書き起こし再生モードを終了するには

1 停止中に ■ 停止ボタンを押す。

「書き起こし用再生を終了しますか？」と表示されます。

2 ▲ または ▼ を押して「はい」を選び、►ボタンを押す。

通常の停止画面に戻ります。

ヒント

書き起こし再生中に、メニューで「書き起こし終了」を選ぶと、書き起こし用再生終了の確認画面が表示されます。▲ または ▼ を押して、「はい」を選び ►ボタンを押すと、書き起こし用再生モードが終了します。

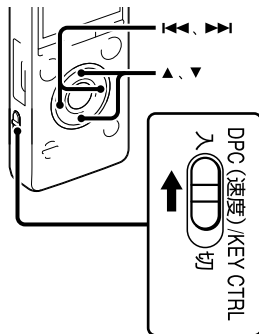
ご注意

- スリープタイマーの設定時間が経過すると、書き起こし用再生中でも電源が切れスリープモードに入ります。
- 書き起こし用再生中は次の機能が働きません。
  - 録音操作
  - 音質の設定（エフェクト）
  - 再生モード
  - ファイルの選択
  - ファイル消去

– トラックマーク消去
– トラックマーク全消去
– ファイルリストの表示
– A-B リピート
– 保護

ヒント

- 違うファイルを聞きたいときは、書き起こし用再生モードを終了してください。
- 書き起こし用再生モード中は、以下のメニューを設定することができます。
  – 書き起こし終了
  – ノイズカット
  – ボイスアップ
  – イージーサーチ間隔設定
  – スリープタイマー

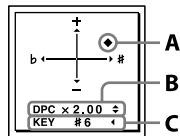
再生速度と音程を調節する — DPC (Digital Pitch Control)、キーコントロール

再生速度を0.25倍速から3.00倍速の間で調節できます。その際、音程はデジタル処理により、自然に近いレベルで再生します。再生音の音程は、半音ずつ上下6段階に調節して、再生することができます。伴奏に合わせて歌を練習するときなどに便利です。

再生中に加え、書き起こし用再生中も再生速度を変えることができます。

1 DPC (速度)/KEY CTRLスイッチを「入」にする。

2 再生中に ▲ または ▼ を押して、設定モードに入る。

3 ▲ または ▼ を押して、再生速度を調節する。
0.05倍速刻みで遅くする(x0.25 ～ x1.00)
0.10倍速刻みで速くする(x1.00 ～ x3.00)
ボタンを長押しすると連続して設定できます。
お買い上げ時は、「x0.70」になっています。

4 ⏮ または ⏭ を押して、音程を調節する。
半音ずつ上げる(♯1 ～ ♯6)
半音ずつ下げる(♭1 ～ ♭6)
お買い上げ時は、「0」になっています。

A：現在設定されている位置
B：DPC設定値
C：キーコントロール設定値

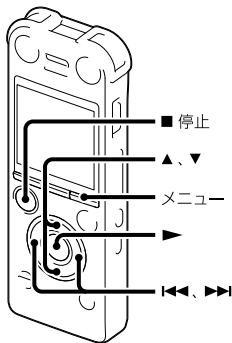
5 ►ボタンを押して、設定モードを終了する。

通常の再生速度に戻すには

DPC (速度)/KEY CTRLスイッチを「切」にします。

ご注意

再生速度が2.10倍速～ 3.00倍速の場合、ノイズカット機能(73ページ)、エフェクト機能は働きません。

音質を切り換える — エフェクト

メニューで再生する音楽によって適した効果を設定します。

1 停止中／再生中に、メニュー → ▶ タブ → 「エフェクト」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲ または ▼ を押して、お好みの音質を選び、► ボタンを押す。

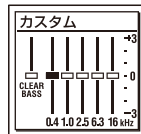
3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

オフ*	エフェクト機能を無効にします。
ポップス ᚋᚋP	中域を強調したヴォーカルなどに適した音質になります。
ロック ᚋᚋR	低域と高域を最も強調した迫力のある音質になります。
ジャズ ᚋᚋJ	高域を強調した張りのある音質になります。
ベース1 BA1	低音が強調されます。
ベース2 BA2	低音が更に強調されます。
カスタム ᚋᚋC	5バンドおよびクリアベースのサウンドレベルを自由に設定できます。

* お買い上げ時の設定

自分好みの音質に設定するには

1 手順2で「カスタム」を選び、►ボタンを押す。
カスタム設定画面が表示されます。

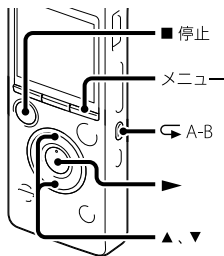
2 0.4kHz、1.0kHz、2.5kHz、6.3kHzまたは16kHzの周波数帯のレベルを調節する場合は、I◄◄ または ►►I を押してそれぞれの周波数帯へ移動し、▲ または ▼ を押してレベルを調節する。
−3 ～ +3の7段階に設定できます。

3 クリアベースを調節する場合は、I◄◄ を押して「CLEAR BASS」へ移動し、▲ または ▼ を押す。
0 ～ +3の4段階に設定できます。

4 ►ボタンを押す。

5 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意

内蔵スピーカーで再生しているとき、ノイズカット機能が有効に設定されているとき、「書き起こし用再生」を選択しているときは、エフェクト機能は働きません。

再生モードを変える

シャッフル再生やリピート再生など、メニューで用途に応じた再生モードを選ぶことができます。

1 停止中にメニュー →▶ タブ →「再生モード」を選び、►ボタンを押して決定する。

再生カテゴリー選択画面が表示されます。

2 ▲または▼を押して、再生したいカテゴリー（「録音した音声（ボイス）」、「ミュージック」または「ポッドキャスト」）を選び、►ボタンを押す。

3 ▲または▼を押して、「1」、「🗀」、「ALL」、「⟲1」、「⟲ 🗀」または「⟲ ALL」を選び、►ボタンを押す。

4 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

1	1ファイルを再生する。
🗀*	フォルダ内のファイルを連続再生する。
ALL	全ファイルを連続再生する。
⟲1	1ファイルをリピート再生する。
⟲🗀	フォルダ内のファイルをリピート再生する。
⟲ ALL	全ファイルをリピート再生する。
⤮🗀	MUSICフォルダ内の全ファイルを順不同に再生する。
⤮ ALL	タブ内の全MUSICフォルダの全ファイルを順不同に再生する。

* お買い上げ時の設定

ヒント

- 再生中にメニューの「再生モード」を選ぶと、手順2のカテゴリー選択画面は表示されず、お好みの再生モードを直接選ぶことができます。
- 再生中に ►ボタンを1秒以上押すと、メニューで設定しなくても、1ファイルをリピート再生をすることができます。

ご注意

- 「 」と「 ALL」は、ミュージックカテゴリを選んだ場合のみ設定することができます。
- 再生モードはカテゴリー（「録音した音声（ボイス）」、「ミュージック」または「ポッドキャスト」）ごとに設定されます。別カテゴリーを選んだ場合は再生モードを選びなおしてください。

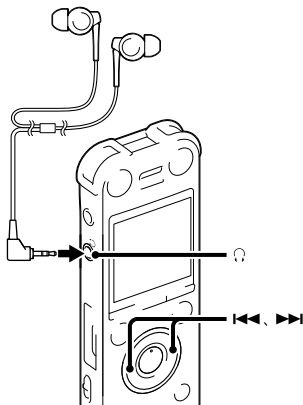
必要な部分だけを再生する — A-Bリピート

1 再生中に A-Bボタンを押して、A点を指定する。
「A-B B?」が表示されます。

2 もう一度 A-Bボタンを押して、B点を指定する。
「A-B」が表示されて、指定した区間が繰り返し再生されます。

ヒント

- A-Bリピート再生を止めて通常の再生に戻すには、 A-Bボタンをもう一度押します。
- A-Bリピート再生を停止するには、■ 停止ボタンを押します。A-Bリピートの設定を保持したまま再生が止まります。もう一度 ■ 停止ボタンを押すと、A-Bリピート設定が解除されます。
- A-Bリピートの範囲を変えるには、A-Bリピート再生中にもう一度 A-Bボタンを押して通常の再生に戻ります。もう一度手順1と2を行ってください。

より便利な再生方法

高音質で再生するには

- ヘッドホンで聞く：
  付属のステレオヘッドホンを 🎧 ジャックにつないでください。スピーカーからは音が出なくなります。
- 外部スピーカーで聞く：
  別売のアクティブスピーカーを 🎧 ジャックにつないでください。

再生中に早送り／早戻しする — キュー／レビュー

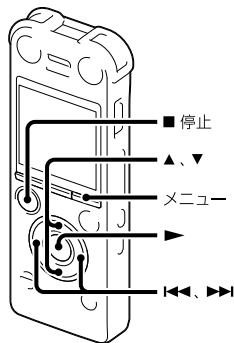
- 早送り（キュー）：
  再生中に ⏭ を押したままにして、聞きたいところで離します。
- 早戻し（レビュー）：
  再生中に ⏮ を押したままにして、聞きたいところで離します。

最初は少しずつ早送り／早戻しされるので、1語分だけ戻したり、送ったりして聞きたいときに便利です。押し続けると、高速での早送り／早戻しになります。

💡 最後のファイルの終わりまで再生または早送り（キュー）すると

- 最後のファイルの終わりまで来ると、「FILE END」表示が約5秒間点灯します。
- 「FILE END」が消えると、最後のファイルの頭に戻って止まります。

• 「FILE END」の点灯中に ⏮ を押したままにすると、早戻しされ、離したところから再生が始まります。

聞きたいところをすばやく探す — イージーサーチ機能

イージーサーチ機能を使うと再生を開始したい場所をすばやく見つけることができます。

また、早送り／早戻しの間隔を設定することで、会議録音など長時間録音したものでも、聞きたいところをすばやく探すことができます。

1 停止中／再生中に、メニュー → ▶ タブ → 「イージーサーチ」を選び、►ボタンを押して決定する。

2 現在の間隔で早戻し、早送りをするには、▲ または ▼ を押して、「オン」を選び、►ボタンを押す。（手順6へ）
間隔を変更するには、▲ または ▼ を押して、「間隔設定」を選び、►ボタンを押す。

3 ▲または▼を押して、「イージーサーチ送り」または「イージーサーチ戻し」を選び、►ボタンを押す。

4 ▲または▼を押して、早送り、早戻しの間隔を設定し、►ボタンを押す。

ヒント

早戻し、早送り、両方の間隔を設定するには、手順3と4を繰り返します。

5 ▲または▼を押して、「設定完了」を選び、►ボタンを押す。

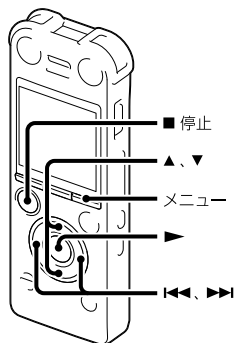
6 ■停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

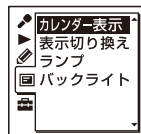
オン	再生中、▶▶I を押すと、設定した間隔進み、I◀◀ を押すと、設定した間隔戻ります。会議録音などで、聞きたいところをすばやく探すのに便利です。
オフ*	イージーサーチ機能を無効にします。▶▶I または I◀◀ を押すと、ファイルを早送り／早戻しします。
間隔設定	イージーサーチ送り、戻しの間隔を設定します。 • 設定完了：イージーサーチ送り、イージーサーチ戻しの設定を有効にします。 • イージーサーチ送り：▶▶I を押したときに進む間隔を、5秒、10秒*、30秒、1分、5分、10分から選びます。 • イージーサーチ戻し：I◀◀ を押したときに戻る間隔を、1秒、3秒*、5秒、10秒、30秒、1分、5分、10分から選びます。

* お買い上げ時の設定

ヒント

書き起こし用再生中も間隔設定をすることができます。

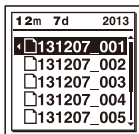
カレンダーから録音した日付を選んで再生する

画面表示をカレンダーに切り換え、ICレコーダーで録音したファイルを、カレンダーから検索して再生できます。

1 停止中にメニュー → 画タブ →「カレンダー表示」を選び、►ボタンを押して決定する。

「アクセス中...」のアニメーションの後に、カレンダーが表示され、現在の日付が選択されます。

2 ⏮ または ⏭ を押して、日付を選び、►ボタンを押す。

ファイルが存在する日付には下線が表示されます。

▲ または ▼ を押すと、前後の週へ移動します。それぞれのボタンを長押しすると、連続して移動します。

3 ▲または▼を押して、ファイルを選び、►ボタンを押す。

▲または▼を押してファイルを選ぶと、確認のため、選んだファイルが再生されます。
►ボタンを押すと再生が始まります。

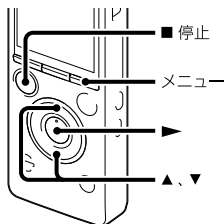
4 再生を止めるには、■ 停止ボタンを押す。

途中でカレンダーから録音した日付を選んで再生するのをやめるには

手順3で ►ボタンを押す前に、■ 停止ボタンを押します。

ご注意

- カレンダーから検索してファイルを再生するには、あらかじめICレコーダーの時計を合わせる必要があります（25ページ）。
- ファイルの存在しない日付を選択して決定した場合は、「ファイルがありません」が表示されます。ファイルが存在する日付を選択してください。
- カレンダーから検索して再生できるのは、ICレコーダーで録音したファイルが入っている録音可能フォルダのみです。フォルダ構成について詳しくは「フォルダとファイルの構成」（116ページ）をご覧ください。

希望の時刻に再生を始める — アラーム再生

あらかじめ設定した時刻にアラーム音とともにファイルを再生できます。
特定の日付を指定したり、毎週同じ曜日や毎日同じ時刻に再生するように設定できます。
1ファイルに1件のアラームが設定できます。最大30件まで設定できます。

1 アラーム再生したいファイルを表示させる。

2 アラーム設定をする。

①停止中にメニュー → ► タブ → 「アラーム」を選び、→ ►ボタンを押して決定する。

② ▲ または ▼ を押して、「新規」を選び、►ボタンを押す。

3 アラーム再生したい日時、時刻を設定する。

① ▲ または ▼ を押して、「日時」、「月曜日」や「火曜日」など設定したい曜日、または「毎日」を選び、►ボタンを押す。

②次のいずれかの操作を行う。
「日時」を選んだ場合：
「時計を合わせる」（25ページ）に従って年月日、時刻を設定します。

曜日や「毎日」を選んだ場合：

▲または▼を押して「時」を選び、►ボタンを押し、同じように▲または▼を押して「分」を選び、►ボタンを押します。

4 ▲または▼を押してお好みのアラームパターンを選び、►ボタンを押す。

「実行中...」の表示が出ます。

5 ■停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

メニューを終了すると「(•)」が表示されて、選んだファイルにアラームが設定されます。

設定内容を変更するには

アラーム再生したいファイルを表示し、2～5の手順を繰り返します。

設定内容を解除するには

設定内容を解除するには、メニュー →▶タブ →「アラーム」→「アラーム一覧」で解除したい設定を選び、►ボタンを押します。▲または▼を押して「解除」を選び、►ボタンを押します。▲または▼を押して「実行」を選び、►ボタンを押すとアラームが解除され、表示窓のアラーム表示が消えます。

設定した時刻になると

自動的に電源が入り、「ALARM」が表示されて、アラーム再生が始まります。

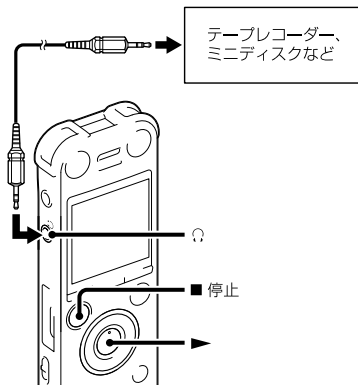
再生が終わると、自動的に停止します（アラームパターンで「ビープ&再生」または「再生」が設定されている場合は、アラーム再生したファイルの頭に戻ります）。

なお、メニューの「操作音」が「オフ」に設定されている場合もアラームは鳴ります。

アラーム再生を止めるには

アラーム再生中に音量－／＋以外のボタンを押します。ホールド中は、どのボタンを押しても止められます。

接続して再生する

ICレコーダーの音声を他の機器で録音する

ICレコーダーにつないだ他の機器でICレコーダーの音声を録音できます。
録音をする前に、あらかじめためし録りをしてから、録音することをおすすめします。

1 ICレコーダーの Ω ジャックと他の機器の外部入力端子を、別売のソニー製オーディオコード*を使ってつなぐ。

2 ICレコーダーの ►ボタンを押して再生状態にし、同時に、つないだ機器の録音ボタンを押して、録音状態にする。

ICレコーダーのファイルが他の機器に録音されます。

3 録音を止めるには、ICレコーダーの ■ 停止ボタンを押し、つないだ機器の停止ボタンを押す。

***お使いになれるオーディオコード（別売）**

ラインインを使って接続するときは、次の抵抗なしオーディオコードをお使いください。

	ICレコーダー側	接続先機器側
RK-G139	ステレオミニプラグ（抵抗なし）	ミニプラグ（モノラル）（抵抗なし）
RK-G136	ステレオミニプラグ（抵抗なし）	ステレオミニプラグ（抵抗なし）

ファイルを消去する

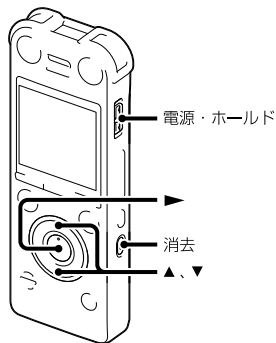
1 電源・ホールドスイッチを「電源」の位置にスライドして電源を入れる（24ページ）、または中央にスライドしてホールドを解除する（35ページ）。

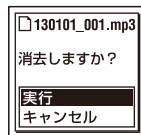
停止画面が表示されます。

2 停止中または再生中に消去したいファイルを選ぶ（30ページ）。

3 消去ボタンを押す。

「消去しますか？」と表示され、確認のため、選んだファイルが再生されます。

4 ▲ または ▼ を押して、「実行」を選ぶ。

ご注意

- 一度消去したファイルはもとに戻すことはできません。ご注意ください。
- 保護設定されているファイルは、消去できません。保護設定を解除してから操作してください。
- 書き起こし用再生中、停止中は、消去できません。

5 ►ボタンを押す。

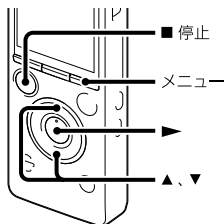
「消去中...」のアニメーションが表示され、ファイルが消去されます。
ファイルを消すと、次のファイルが自動的に繰り上がるので、間に空白部分は残りません。

途中で消去をやめるには

手順4で「キャンセル」を選び、►決定ボタンを押します。

ひとつのファイルの一部分だけ消去するには

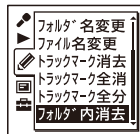
ファイル分割(100ページ)で消去する部分としない部分に分け、消去したい部分のファイル番号を選んで「ファイルを消去する」の手順3から手順5の操作をします。

フォルダの中身を一度に消去する

選んだフォルダの中身をすべて消去します。
消去する前に、🗀(フォルダ)ボタンを押して消去したいフォルダに切り換えてから、メニューモードにしてください。

ご注意

保護設定されているファイルは、消去できません。保護設定を解除してから操作してください。

1 停止中に消去したいファイルの入っているフォルダを選ぶ。

2 メニュー → タブ → 「フォルダ内消去」を選び、►ボタンを押して決定する。

「フォルダ内のファイルを全て消去しますか？」と表示されます。

3 ▲または▼を押して、「実行」を選び、►ボタンを押す。

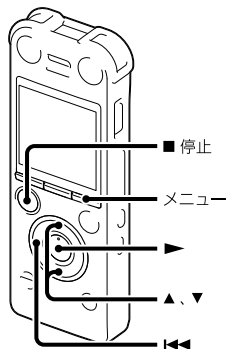
「消去中...」のアニメーションが表示され、フォルダ内の全ファイルが消去されます。

4 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

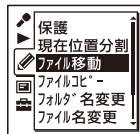
途中で消去をやめるには

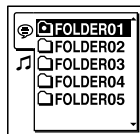
手順3で「キャンセル」を選び、►ボタンを押します。

フォルダ内のファイルを整理する

ファイルを別のフォルダに移動する

選んだファイルをお好みのフォルダに移動することができます。

1 移動させたいファイルを選ぶ。

2 停止中にメニュー → タブ →「ファイル移動」を選び、►ボタンを押して決定する。

3 ⏮ を押した後、▲ または ▼ を押して タブまたは ♫ タブを選び、►ボタンを押す。

4 ▲ または ▼ を押して、移動先のフォルダを選び、►ボタンを押す。

「移動中...」のアニメーションが表示され、移動先フォルダの最終ファイルの位置にファイルを移動します。
移動すると、もとのフォルダからそのファイルはなくなります。

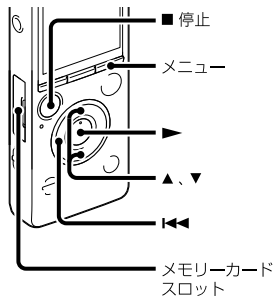
5 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

途中でファイルの移動をやめるには

手順4の前に ■ 停止ボタンを押します。

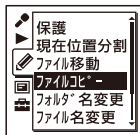
ご注意

- 保護設定されているファイルは、移動できません。保護設定を解除してから操作してください。
- ポッドキャストのファイルは、移動できません。
- ポッドキャストフォルダへの移動はできません。

ファイルを別のメモリーにコピーする

内蔵メモリーで選んだファイルを、メモリーカードのお好みのフォルダにコピーします。またはメモリーカードから内蔵メモリーにコピーすることもできます。
バックアップをとる場合などに便利です。操作を始める前に、ファイルコピーに使用するメモリーカードをメモリーカードスロットに入れてください。

1 コピーしたいファイルを表示する。

メモリーカードのファイルを内蔵メモリーにコピーするときは、メモリーをメモリーカードに切り換えます。（33ページ）

2 メニュー → ✐タブ → 「ファイルコピー」を選び、►ボタンを押して決定する。

「メモリーカードのコピー先を選択してください」または「内蔵メモリーのコピー先を選択してください」というアニメーションが表示され、フォルダ選択画面が表示されます。

3 ⏮ を押した後、▲または▼を押して 💬 タブまたは ♫ タブを選び、►ボタンを押す。

4 ▲または▼を押して、コピー先のフォルダを選び、►ボタンを押す。

「コピー中...」のアニメーションが表示され、コピー先フォルダの最後にコピーします。ファイルは同じファイル名でコピーされます。

5 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

途中でコピーをやめるには

手順4の前に ■ 停止ボタンを押します。

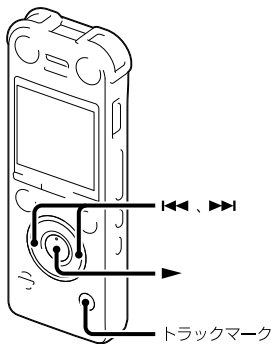
コピー中に中止するには

手順4で「コピー中...」のアニメーションが表示されているときに、■ 停止ボタンを押します。

ご注意

ポッドキャストのファイルは、コピーできません。

トラックマークを使う

トラックマークを付ける

再生時の頭出しや、分割位置の目安として利用するために、トラックマークを付けることができます。1つのファイルに98個まで設定できます。

録音中、再生中、録音一時停止中、トラックマークを付けたい場所でトラックマークボタンを押す。

⚑(トラックマーク)表示が3回点滅し、トラックマークが設定されます。

トラックマークを付けた位置を探して聞くには

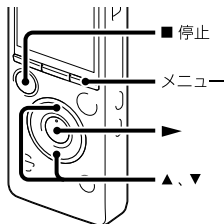
停止中に ⏮ または ⏭ を押します。

⚑(トラックマーク)表示が1回点滅したら、►ボタンを押します。

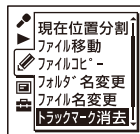
ご注意

- 保護設定されているファイルには、トラックマークが付けられません。保護設定を解除してから操作してください。
- 音楽ファイルやポッドキャストファイルには、トラックマークが付けられません。
- シンクロ録音中はトラックマークが付けられません。

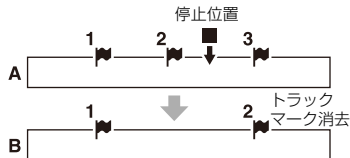
💡ヒント
書き起こし用再生中もトラックマークを付けることができます。

トラックマークを消去する

現在位置のトラックマークを消去します。

1 消去したいトラックマーク位置の後で停止する。

2 メニュー → ✎タブ → 「トラックマーク消去」を選び、►ボタンを押して決定する。

「トラックマークを消去しますか？」と表示されます。

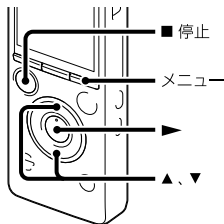
3 ▲または▼を押して、「実行」を選び、►ボタンを押す。

「消去中...」のアニメーションが表示され、設定したトラックマークは消去されます。

A：トラックマーク消去前：■は停止位置
B：トラックマーク消去後：停止位置の一つ前のトラックマークが消去される。

4 ■停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

途中で消去をやめるには
手順3で「キャンセル」を選び、►ボタンを押します。

ご注意
保護設定されているファイルは、トラックマークが消去できません。保護設定を解除してから操作してください。

すべてのトラックマークを消去する

選んだファイル内のすべてのトラックマークを削除します。

1 トラックマークを消去したいファイルを選ぶ。

2 メニュー → タブ →「トラックマーク全消去」を選び、►ボタンを押して決定する。

「トラックマークを全て消去しますか?」と表示されます。

3 ▲または▼を押して、「実行」を選び、►ボタンを押す。

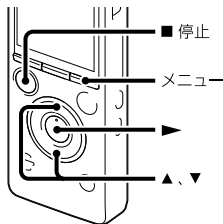
「消去中...」のアニメーションが表示され、すべてのトラックマークが一度に消去されます。

4 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

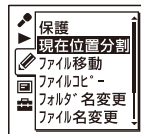
途中で消去をやめるには
手順3で「キャンセル」を選び、►ボタンを押します。

ご注意
保護設定されているファイルは、トラックマークが消去できません。保護設定を解除してから操作してください。

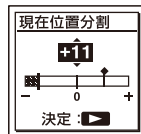
ファイルを分割する

現在位置で分割する

停止中にファイルを分割して、そのファイル名に新しい番号が付けられます。会議など1つのファイルが長時間になったときなどに、複数のファイルに分割しておくと、再生したい場所がすばやく探せ、便利です。分割したいファイルが入っているフォルダのファイル数がいっぱいになるまで、ファイルを分割できます。

1 分割したい位置で停止する。

2 メニュー → タブ →「現在位置分割」を選び、►ボタンを押して決定する。

分割位置から約4秒間の繰り返し再生が始まります。

3 ▲ または ▼ を押して希望する分割位置を微調整する。

▲ で後ろに移動、▼ で前に移動します。

現在位置の前後約6秒間で約0.3秒単位での微調節が可能です。

4 ►ボタンを押す。

「分割しますか？」と表示されます。

5 ▲または▼を押して、「実行」を選び、►ボタンを押す。

「分割中...」のアニメーションが表示されて、分割元のファイルには「_1」が、新しいファイルには「_2」が付きます。

A	ファイル1	ファイル2		ファイル3
		▲ ファイル分割		
B	ファイル1	ファイル2_1	ファイル2_2	ファイル3

A：分割前：▲は分割位置
B：分割後：分割したファイル名の末尾に連番（「_1」、「_2」）が付く。

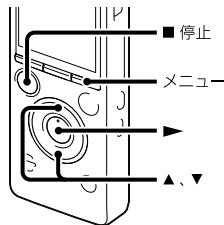
6 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

途中で分割をやめるには

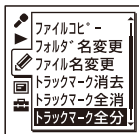
手順5で「キャンセル」を選び、►ボタンを押します。

ご注意

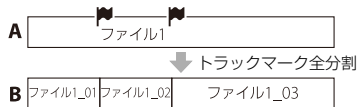
- 保護設定されているファイルは、分割できません。保護設定を解除してから操作してください。
- 音楽ファイルやポッドキャストファイルは、分割できません。

すべてのトラックマーク位置で分割する

トラックマークのある位置でファイルを分割することができます。

1 分割したいファイルを選ぶ。

2 停止中にメニュー → ✐タブ →「トラックマーク全分割」を選び、►ボタンを押して決定する。

「全てのトラックマークで分割しますか？」と表示されます。

3 ▲または▼を押して、「実行」を選び、►ボタンを押す。

「分割中...」のアニメーションが表示されて、すべてのトラックマークが消去され、トラックマークの位置で分割します。ひとつのファイルから分割されたファイルには末尾に連番（_01 ～）が振られます。

A：分割前：⚑はトラックマーク位置
B：分割後：トラックマーク位置でファイルが分割され、分割したファイル名の末尾に連番（「_01」、「_02」）が付く

4 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

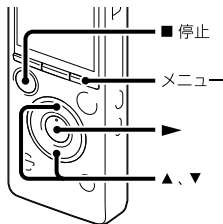
途中で分割をやめるには

- 手順3で「キャンセル」を選び、►ボタンを押します。
- 分割中に中止するには、手順3で「分割中・・・」のアニメーションが表示されているときに、■ 停止ボタンを押します。

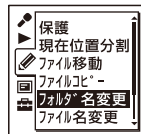
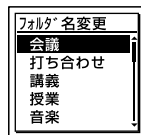
ご注意

- 保護設定されているファイルは、分割できません。保護設定を解除してから操作してください。
- 音楽ファイルやポッドキャストファイルは、分割できません。
- 録音可能エリア内のファイルのみ分割することができます。

名前を変更する

フォルダの名前を変更する

ICレコーダーで録音できるフォルダに対して、フォルダ名を変更することができます。
変更するフォルダ名は、テンプレートから選ぶことができます。

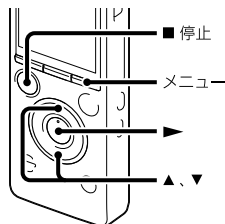
1 フォルダリストの タブから、名前を変更したいフォルダを選ぶ。

2 停止中に、メニュー → タブ →「フォルダ名変更」を選び、►ボタンを押して決定する。

3 ▲ または ▼ を押して、お好みのフォルダ名を選び、►ボタンを押す。

「実行中...」が表示され、フォルダ名が変更されます。

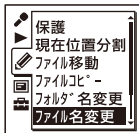
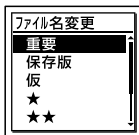
4 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ヒント
- 同じフォルダ名を選んだときは、フォルダ名の末尾に2 ～ 10の数字が付きます。
- テンプレートから「FOLDER」を選んだときは、フォルダ名の末尾には常に01 ～ 10の数字が付きます。
- Sound Organizerを使って、テンプレートの編集が可能です。

ご注意
音楽やポッドキャストのフォルダは、操作できません。

ファイル名を変更する

録音可能エリアの タブ内のファイルに対して、ファイル名の先頭に文字を追加することができます。
追加する文字は、テンプレートから選ぶことができます。

1 タブのフォルダ内で、名前を変更したいファイルを選ぶ。

2 停止中に、メニュー → ✐タブ →「ファイル名変更」を選び、►ボタンを押して決定する。

3 ▲ または ▼ を押して、ファイル名の先頭に追加したい文字を選び、►ボタンを押す。

「実行中...」が表示され、選択した文字または記号と「_」が、ファイル名の先頭に追加されます。
例（131215_001.mp3 に「A」を追加した場合）：
A_131215_001.mp3

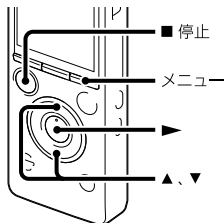
4 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ヒント

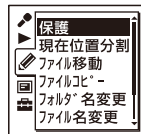
Sound Organizerを使って、テンプレートの編集が可能です。

ご注意

- 保護設定されているファイルは、操作できません。保護設定を解除してから操作してください。
- 音楽ファイルやポッドキャストファイルは、操作できません。
- 録音可能エリア内のファイルのみ操作することができます。

ファイルを保護する

大事なファイルを間違って消去、編集することがないように保護することができます。保護されたファイルには、🔒(保護)マークが表示され、消去、編集ができない読み取り専用ファイルになります。

1 💬タブ、♫タブの中から、保護したいファイルを表示する。

2 停止中にメニュー → ✐タブ → 「保護」を選び、►ボタンを押して決定する。

「保護に設定しますか？」と表示されます。

3 ▲ または ▼ を押して、「実行」を選び、►ボタンを押す。

ファイルが保護されます。

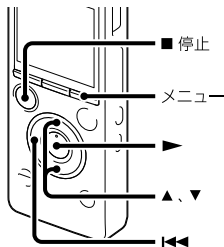
4 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

保護を解除するには

- 保護されたファイルを選び、手順2から手順4を実行します。手順2では「保護を解除しますか？」と表示されます。
- 途中で保護あるいは保護解除の設定をやめるには、手順3で「キャンセル」を選び、►ボタンを押します。

ご注意

ポッドキャストファイルは、操作できません。

メニューの使いかた

1 メニューボタンを押して、メニューモードに入る。

メニュー画面が表示されます。

2 I◄◄ を押した後、▲ または ▼ を押して 🎤、►、✎、▤、🧰タブのいずれかを選び、►ボタンを押す。

3 ▲ または ▼ を押して、設定したい項目を選び、►ボタンを押す。

4 ▲ または ▼ を押して設定し、►ボタンを押す。

5 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

ご注意

操作しない状態が60秒以上続くと、メニューモードが自動的に解除され、通常の画面に戻ります。

1つ前の画面に戻るには

メニュー操作中に I◄◄ を押します。

メニューモードを中止するには

■ 停止ボタンまたはメニューボタンを押します。

メニュー項目一覧

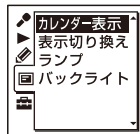
タブ	メニュー	参照ページ
（録音）	録音モード	49
	内蔵マイク設定	43
	外部入力設定	64、66
	LCF(Low Cut)	53
	リミッター	53
	追加／上書き	56、58
	プリレコーディング	60
	クロスメモリー録音	69
	VOR	62
	シンクロ録音	66
▶（再生）	書き起こし用再生	75
	ノイズカット	73
	ボイスアップ	74
	エフェクト	79
	イージーサーチ	84
	再生モード	81
	アラーム	88

タブ	メニュー	参照ページ
（編集）	保護	106
	現在位置分割	100
	ファイル移動	94
	ファイルコピー	95
	フォルダ名変更	103
	ファイル名変更	104
	トラックマーク消去	98
	トラックマーク全消去	99
	トラックマーク全分割	101
	フォルダ内消去	93
（表示）	カレンダー表示	86、111
	表示切り換え	111
	ランプ	111
	バックライト	111
（本体設定）	メモリー切り換え	34、112
	時計設定	26、112
	時刻表示形式	113
	操作音	113

タブ	メニュー	参照ページ
(本体設定)	スリープタイマー	113
	オートパワーオフ	113
	設定初期化	114
	メモリー初期化	114
	本体情報	114

表示設定をする

表示やランプの設定を選ぶことができます。

1 メニュー → タブを選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲または▼を押して、変更したい項目を選び、►ボタンを押す。

3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

カレンダー表示

画面表示をカレンダーに切り換え、ICレコーダーで録音したファイルを、カレンダーから検索して再生できます。

決定	選択したファイルを再生します。
戻る	選択したファイルを再生せず、前の画面に戻ります。

表示切り換え

表示モードを設定します。

経過時間*	1ファイルの経過時間
残り時間	停止／再生中は、1ファイルの残り時間、録音中は、録音可能時間 10時間以上の場合：時間 10分以上、10時間未満の場合：時間と分 10分未満の場合：分と秒
録音日付	録音した日付
録音時刻	録音した時刻

* お買い上げ時の設定

ランプ

録音ランプ／アクセスランプの点灯、消灯を設定します。

オン*	動作中は録音ランプ／アクセスランプが点灯または点滅します。
オフ	動作中も録音ランプ／アクセスランプは点灯／点滅しません。

* お買い上げ時の設定

ご注意

パソコンに接続しているときは、「オフ」に設定していても録音ランプ／アクセスランプは点灯／点滅します。

バックライト

バックライトの点灯、消灯を設定します。

オフ	バックライトが点灯しません。
20秒*	操作をするとバックライトが20秒間点灯します。
1分	操作をするとバックライトが1分間点灯します。
常時	バックライトは常に点灯します。

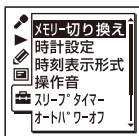
* お買い上げ時の設定

ご注意

「常時」に設定すると、電池の寿命が短くなります。

本体設定をする

操作音、オートパワーオフなどの設定を選ぶことができます。

1 メニュー → 🧰タブを選び、►ボタンを押して決定する。

2 ▲または▼を押して、変更したい項目を選び、►ボタンを押す。

3 ■ 停止ボタンを押して、メニューモードを終了する。

メモリー切り換え

録音したファイルを保存する、または再生、編集、コピーするファイルが保存されているメモリーを選びます。

内蔵メモリー*	内蔵メモリーを使用します。
メモリーカード	ICレコーダーのメモリーカードスロットに挿入されているメモリーカードを使用します。

* お買い上げ時の設定

ご注意

メモリーカードを取り出すと、自動的に内蔵メモリーが選択されます。

時計設定

時計設定の方法を選択します。

自動（対応ソフトと同期）*	ICレコーダーをパソコンにつないで、Sound Organizerを起動すると、パソコンの時計に自動的に合わせます。
手動	「年」「月」「日」「時」「分」をそれぞれ設定して時計を合わせます。

* お買い上げ時の設定

時刻表示形式
時刻表示形式を設定します。

12時間	12：00AM＝真夜中、12：00PM＝正午
24時間*	0：00＝真夜中、12：00＝正午

* お買い上げ時の設定

操作音
確認音を設定します。

オン*	操作時の受け付け確認音およびエラー時の操作音が鳴ります。
オフ	操作時の受け付け確認音やエラー音が鳴りません。

* お買い上げ時の設定

ご注意
「オフ」に設定していてもアラームは鳴ります。

スリープタイマー
スリープタイマーを設定します。

オフ*	スリープタイマーを解除します。
15分、30分、60分、90分、120分	選択した時間が経過すると自動的に電源が切れます。

* お買い上げ時の設定

スリープタイマー動作時の表示
スリープタイマー動作中にメニューを選択すると、スリープに入るまでの残り時間が表示されます。「継続、オフ、15分、30分、60分、90分、120分」から、スリープに入るまでの残り時間を選択することができます。そのまま継続するには、「継続」を選んでください。

ご注意
- オートパワーオフ機能が設定されているときは、スリープタイマーの設定時間の前に電源が切れることがあります。
- 録音中でも、スリープタイマーの設定時間が経過すると電源が切れます。

オートパワーオフ
操作されないまま設定した時間がたつと、自動的に電源が切れます。

オフ	電源は自動的に切れません。
5分	約5分後に電源が切れます。
10分*	約10分後に電源が切れます。
30分	約30分後に電源が切れます。
60分	約60分後に電源が切れます。

* お買い上げ時の設定

設定初期化

メニューの設定をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

実行	「アクセス中...」のアニメーションが表示され、設定を初期化します。
キャンセル	初期化しません。

ご注意

アラーム、保護、メモリー切り換え、時計設定については初期化されません。

メモリー初期化

現在選択されているメモリー（内蔵メモリーまたはメモリーカード）を初期化します。メモリー内のすべてのデータを消去し、フォルダ構成を初期状態に戻します。

実行	「初期化中...」のアニメーションが表示され、初期化します。
キャンセル	初期化しません。

ご注意

- ICレコーダーで使うメモリーカードはパソコンで初期化しないでください。必ずICレコーダーで行ってください。
- あらかじめ初期化したいメモリーに切り換えてから（33ページ）、メモリー初期化を実行してください。
- 内蔵メモリーの初期化をすると、内蔵メモリーに保存されていたすべてのデータが消去されます。（保護したファイルやヘルプガイド、Sound Organizerも消去されます。）一度消去した内容はもとに戻すことはできません。ご注意ください。

本体情報

ICレコーダーの型名、ソフトウェアのバージョン番号、ユーザー名を表示します。ユーザー名はSound Organizerで設定することができます。ファイル名の一部にユーザー名を表示するように設定することもできます。

パソコンにつないで使う

ICレコーダーとパソコンを接続すると、ファイルのやり取りが行えます。

ファイルをICレコーダーからパソコンにコピーして保存する（122ページ）

音楽ファイルをパソコンからICレコーダーにコピーして再生する（123ページ）

USBメモリーとして利用する（124ページ）

パソコンに保存されている画像やテキストファイルなどを一時的に保存することができます。

Sound Organizerでファイルを管理・編集する（125ページ）

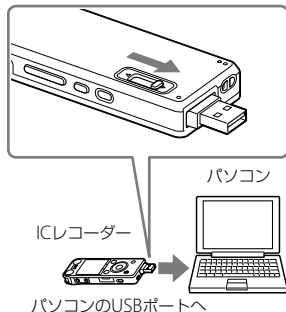
ソフトウェアSound Organizerを使って、ICレコーダーで録音したファイルをパソコンに取り込んで管理・編集したり、パソコンに保存されている音楽ファイルやポッドキャストをICレコーダーに転送したりできます。

パソコンに必要なシステム構成

パソコンに必要なシステム構成については、126ページ、136ページをご覧ください。

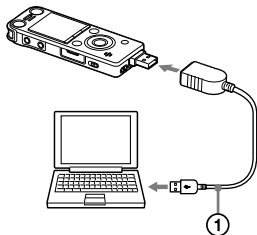
ICレコーダーをパソコンに接続する

ICレコーダーとパソコンでファイルをやり取りするためには、ICレコーダーをパソコンに接続します。

1 ICレコーダーのUSB DIRECTつまみをスライドし、起動しているパソコンのUSBポートに接続する。

ICレコーダーをパソコンのUSBポートに直接接続できない場合は、付属のUSB接続補助ケーブル(①)をお使いください。

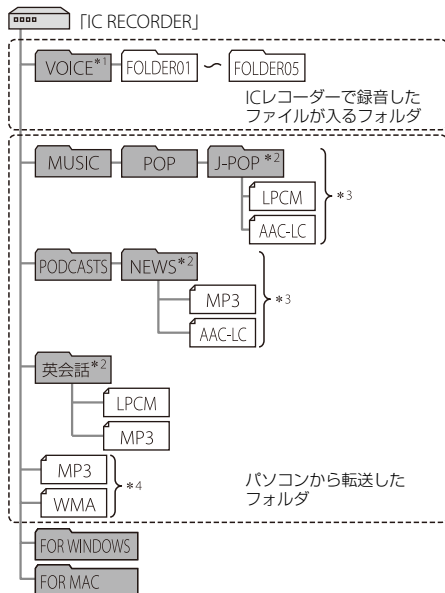
2 正しく認識されているかを確認する。

Windowsでは、[コンピューター](または[マイコンピュータ])を開き、「IC RECORDER」または「MEMORY CARD」が新しく認識されているかを確認してください。
Macでは、Finderに「IC RECORDER」または「MEMORY CARD」という名前のドライブが表示されているかを確認してください。

接続するとパソコン側でICレコーダーを認識することができ、ファイルのやり取りが行えます。

接続している間はICレコーダーの表示窓に「接続中」の表示が出ています。

フォルダとファイルの構成

ICレコーダーをパソコンに接続すると、フォルダやファイルの構成をパソコンの画面で見ることができます。
WindowsではExplorerを使って、MacではFinderを使って、「IC RECORDER」または「MEMORY CARD」を開くと、フォルダやファイルを表示できます。
パソコンの画面で見ると、次の図のように表示されます。

内蔵メモリーの場合

*1 VOICEフォルダ直下にファイルを転送しても、ICレコーダーの タブには表示されません。ファイルを転送するときは、VOICEフォルダ配下のフォルダ内にファイルを入れてください。

*2 音楽ファイルやポッドキャストが保存されたフォルダ名はICレコーダーでも同じフォルダ名として表示されます。管理しやすいフォルダ名にしておくと便利です。（図は、フォルダ名称の例です。）

*3 音楽ファイルを認識できるのは、ICレコーダーに転送したフォルダの8階層目までとなります。

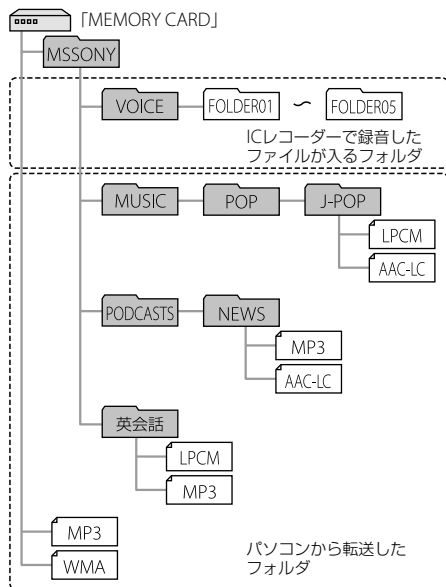
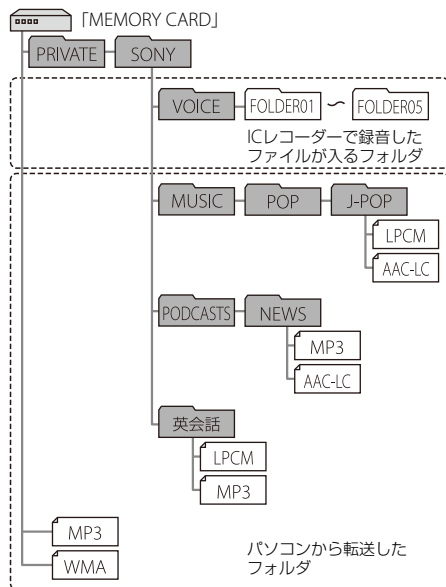
*4 音楽ファイルを単独で転送すると「未分類」のフォルダとして扱われます。

ヒント

- ICレコーダーでは、音楽ファイルに登録されているタイトル名やアーティスト名などの情報を表示することができますので、音楽ファイルを作成するソフトやパソコンで情報を入力しておくと便利です。
- タイトル名またはアーティスト名が登録されていない場合は、ICレコーダーでは「No Data」と表示されます。

ICレコーダーのメモリーを「メモリーカード」に切り換えてから（33ページ）パソコンに接続した場合、内蔵メモリーの場合とはフォルダの構成が異なります。

メモリースティック マイクロ™(M2™)の場合

「MEMORY CARD」
MSSONY
VOICE
FOLDER01 ~ FOLDER05
ICレコーダーで録音したファイルが入るフォルダ
MUSIC
POP
J-POP
LPCM
AAC-LC
PODCASTS
NEWS
MP3
AAC-LC
英会話
LPCM
MP3
MP3
WMA
パソコンから転送したフォルダ

microSDカードの場合

ICレコーダーで見たフォルダの構成

ICレコーダーの表示窓で見たフォルダの構成は、パソコンで見た場合とは異なります。

フォルダの違いは、ICレコーダーの表示窓に表示されるフォルダ表示で区別できます。

- ：ICレコーダーで録音したファイルが入るフォルダ
- ：パソコンから転送したフォルダ（パソコンから転送したときに表示されます。）
- ：パソコンから転送したポッドキャストファイルが入るフォルダ（パソコンから転送したときに表示されます。）

ご注意

ICレコーダーで再生できるファイルが入っていないフォルダは、ICレコーダーでは表示されません。

ICレコーダーの タブに表示されるフォルダ

ICレコーダーで録音したファイルが入るフォルダ（VOICEフォルダ配下のフォルダ）が表示されます。

ご注意

VOICEフォルダ直下にファイルを転送しても、ICレコーダーのタブには表示されません。

ICレコーダーの タブに表示されるフォルダ

パソコンから転送したフォルダのうち、以下のフォルダが表示されます。

- MUSICフォルダ配下のフォルダのうち、中にファイルを含むフォルダ（階層が深い場合は、すべて並列に表示されます。）
- MUSICフォルダ配下またはPODCASTSフォルダ配下以外の場所に転送されたフォルダ
- 「未分類」フォルダ（単独で転送したファイルは、このフォルダ配下に表示されます。）

ICレコーダーの ◎タブに表示されるフォルダ

パソコンから転送したポッドキャストファイルが入るフォルダが表示されます。
ポッドキャストファイルをパソコンからICレコーダーに転送する際は、Sound Organizerをご使用ください。

ICレコーダーをパソコンから取りはずす

必ず下記の手順で取りはずしてください。この手順で行わないと、ICレコーダーにデータが入っている場合に、データが破損して再生できなくなるおそれがあります。

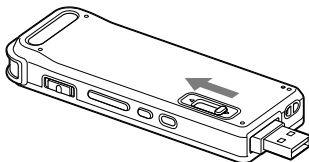
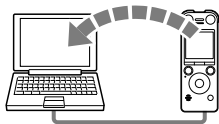
1 ICレコーダーのアクセスランプが消えていることを確認する。

2 パソコンで下記の操作を行う。
Windowsの場合：
タスクバー（パソコンの画面右下）にあるアイコンを左クリックしてください。

→[IC RECORDERの取り外し]（Windows 7、Windows 8）または、[USB大容量記憶装置 − ドライブを安全に取り外します]（Windows XP、Windows Vista）を左クリックしてください。
アイコン、メニューの表示はOSの種類によって異なる場合があります。

お使いのパソコンの設定によっては、タスクバーにアイコンが表示されない場合があります。

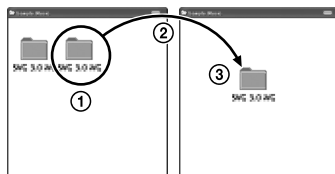
Macの場合：
Finderのサイドバーに表示されている「IC RECORDER」の取り外しアイコンをクリックしてください。
パソコンから取りはずす方法について詳しくは、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。

3 ICレコーダーをパソコンのUSBポートからはずし、ICレコーダーのUSB DIRECTつまみを矢印の方向にスライドしてUSB端子を収納する。

ファイルをICレコーダーからパソコンにコピーして保存する

ICレコーダーにあるファイルやフォルダをパソコンにコピーして保存することができます。

1 ICレコーダーをパソコンに接続する（115ページ）。

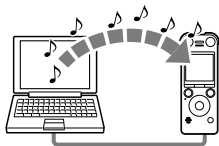
2 保存したいファイルやフォルダをパソコンにコピーする。

「IC RECORDER」または「MEMORY CARD」に入っているファイルやフォルダをパソコンのローカルディスクにドラッグアンドドロップします。

ファイルやフォルダをコピーする（ドラッグアンドドロップ）

ICレコーダーまたはメモリーカード　　パソコン

①コピーしたいフォルダをクリックしたまま、
②保存先まで移動（ドラッグ）して、
③はなす（ドロップ）

3 ICレコーダーをパソコンから取りはずす（120ページ）。

音楽ファイルをパソコンからICレコーダーにコピーして再生する

パソコンに保存してある音楽（語学）ファイル（LPCM(.wav)/MP3(.mp3)/WMA(.wma)/AAC-LC(.m4a)*）をICレコーダーにコピーして再生することができます。

* ICレコーダーで再生可能なファイル形式については、「ICレコーダー本体の仕様」（137ページ）をご覧ください。

パソコンにある音楽ファイルをICレコーダーにドラッグアンドドロップしてコピーする

1 ICレコーダーをパソコンに接続する（115ページ）。

2 パソコン内の音楽ファイルが入っているフォルダをICレコーダーにコピーする。

WindowsではExplorerを使って、MacではFinderを使って、音楽ファイルが入っているフォルダを「IC RECORDER」または「MEMORY CARD」にドラッグアンドドロップします。

ICレコーダーでは最大400個のフォルダまで認識できます。1個のフォルダには最大199のファイルを入れることができます。また、1つのメモリーに対して、フォルダとファイルを合計して最大4,095まで認識できます。

3 ICレコーダーをパソコンから取りはずす（120ページ）。

コピーした音楽ファイルをICレコーダーで再生する

1 🗀（フォルダ）ボタンを押す。

2 ⏮ を押した後、▲ または ▼ を押して ♫タブを選び、►ボタンを押す。

3 ▲ または ▼ を押して、音楽ファイルを入れたフォルダ( )を選び、►ボタンを押す。

フォルダ内のファイル選択画面を表示するには、▲ または ▼ を押してフォルダを選び、⏭ を押します。

4 再生したい音楽ファイルを選ぶ。

ファイル選択画面が表示されているときは、▲ または ▼ を押して、ファイルを選び、►ボタンを押します。

停止画面が表示されているときは、⏮ または ⏭ を押してファイルを切り換えることができます。

5 ►ボタンを押して再生を始める。

▲ または ▼ を押して再生中の音楽ファイルの情報を確認することができます。(72ページ)

6 再生を止めるには、■ 停止ボタンを押す。

USBメモリーとして利用する

ICレコーダーとパソコンをUSB経由で接続すると、パソコン上にあるICレコーダーで録音したファイル以外の画像やテキストなどのファイルをICレコーダーに一時保存できます。
USBメモリーとして使うためには、一定の条件を満たしたシステム構成のパソコンが必要です。
OSの条件については「必要なシステム構成」(136ページ)をご覧ください。

Sound Organizerを使う

Sound Organizerでできること

Sound Organizerでは、ICレコーダーやメモリーカードとファイルのやりとりができます。また、音楽CDなどから取り込んだ楽曲、パソコンから取り込んだMP3などの音声ファイルやポッドキャストを再生したり、ICレコーダーに転送したりできます。取り込んだファイルは、再生、編集、 MP3ファイルなどへの変換など、さまざまな操作ができます。また、お好みの音楽CDを作成したり、音声ファイルをメールで送信することができます。
使用方法の詳細はSound Organizerのヘルプをご覧ください。

ICレコーダーで録音したファイルを取り込む

ICレコーダーで録音した音声ファイルをSound Organizerに取り込めます。
取り込んだファイルはパソコンに保存されます。

音楽CDから楽曲を取り込む

音楽CDの楽曲をSound Organizerに取り込みます。
取り込んだ楽曲はパソコンに保存されます。

パソコン上のファイルを取り込む

パソコン上に保存されている音楽などのファイルをSound Organizerに取り込めます。

ポッドキャストを登録／更新する

Sound Organizerにポッドキャストを登録します。
ポッドキャストを登録／更新すると、インターネットから最新のデータをダウンロード(購読)して楽しむことができます。

ファイルを再生する

Sound Organizerに取り込んだファイルを再生します。

ファイルの曲情報を変更する

ファイル一覧に表示されるタイトル名、アーティスト名などの曲情報を変更します。

ファイルを分割する

1つのファイルを複数のファイルに分割します。

ファイルを結合する

複数のファイルを1つのファイルに結合します。

フォルダ名、ファイル名のテンプレートを編集する

「フォルダ名変更」、「ファイル名変更」メニューで使用するテンプレートを編集することができます。

ICレコーダーにユーザー名を登録する

ICレコーダーのユーザーを認識するための情報です。ユーザー名を設定した状態でICレコーダーで録音すると、ファイルにユーザー名の情報がつきます。未登録の場合は「My Recording」と表示されます。

ICレコーダーからファイルを削除する

ICレコーダーに保存されているファイルを削除できます。
ICレコーダーの空き容量を増やしたい場合や、不要なファイルがある場合などは、この操作でICレコーダー内のファイルを削除してください。

ICレコーダーに転送する

Sound OrganizerからICレコーダーやメモリーカードにファイルを転送します。
転送された音楽やポッドキャストなどをICレコーダーで楽しむことができます。

音楽CDを作成する

Sound Organizerに取り込んだ楽曲からお好みの楽曲を選んで、自分だけのオリジナル音楽CDを作成します。

その他の便利な使いかた

- メールソフトウェアを起動して、録音した音声ファイルを添付してメールで送信できます。
- Sound Organizerに対応した音声認識ソフトウェア「AmiVoice SP」または「ドラゴンスピーチ/Dragon NaturallySpeaking」（別売）を使って、ファイルを音声認識して文字に変換できます。

パソコンに必要なシステム構成

Sound Organizerを使用するためには、以下の環境が必要です。

OS

- Windows 8
- Windows 8 Pro
- Windows 7 Ultimate
- Windows 7 Professional
- Windows 7 Home Premium
- Windows 7 Home Basic
- Windows 7 Starter

- Windows Vista Ultimate Service Pack 2 以降
- Windows Vista Business Service Pack 2 以降
- Windows Vista Home Premium Service Pack 2 以降
- Windows Vista Home Basic Service Pack 2 以降
- Windows XP Media Center Edition 2005 Service Pack 3 以降
- Windows XP Media Center Edition 2004 Service Pack 3 以降
- Windows XP Professional Service Pack 3 以降
- Windows XP Home Edition Service Pack 3 以降

標準インストール（日本語版のみ）

ご注意

- 上記のOSがパソコン工場出荷時にインストールされている必要があります。
  アップグレードした場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。
- Windows XPについては、64ビット版のOSは動作保証いたしません。

以下の性能を満たしたIBM PC/ATおよびその互換機

- CPU
  Windows XP：Pentium III プロセッサー 500 MHz以上
  Windows Vista：Pentium III プロセッサー 800 MHz以上
  Windows 7：Pentium III プロセッサー 1 GHz以上
  Windows 8：Pentium III プロセッサー 1 GHz以上
- メモリー
  Windows XP：256 MB以上
  Windows Vista：512 MB以上（Windows Vista Ultimate/Business/Home Premiumの場合は1 GB以上推奨）
  Windows 7：1 GB以上（32ビット版）／ 2 GB以上（64ビット版）
  Windows 8：1 GB以上（32ビット版）／ 2 GB以上（64ビット版）
- ハードディスクの空き容量
  400 MB以上
  Windowsのバージョンによってはそれ以上使用する場合があります。
  また、音楽データを扱うための空き容量がさらに必要です。

- ディスプレイの設定
  画面の解像度：800×600ピクセル以上（1,024×768ピクセル推奨）
  画面の色：High Color（16ビット）以上
- サウンドボード
  SoundBlaster互換推奨
- USBポート
  機器・メディアをご使用になるには、使用可能なUSBポートが必要です。
  USBハブにて拡張されたUSBポートは特別に動作保証された機種以外での動作の保証はいたしません。
- ディスクドライブ：音楽CDを作成する場合はCD-R/RWドライブが必要です。

Sound Organizerをインストールする

Sound Organizerを本体の内蔵メモリーからパソコンのハードディスクなどにインストールします。

ご注意

- Sound Organizerをインストールするときは、Administrator（管理者）権限でログオンしてください。
  また、Windows 7またはWindows 8をお使いで「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、内容をご確認の上、[はい]（Windows Vistaの場合は[続行]）をクリックしてください。
- Windows XPの制限ユーザーでは、Sound Organizerを起動できません。
- Windows XPでソフトウェアのアップデート機能を使うには、コンピューターの管理者としてログオンする必要があります。
- Sound OrganizerのインストールによってWindows Media Format Runtimeのモジュールが追加されます。Sound Organizerをアンインストールした場合でも、このモジュールは削除されません。
  ただし、プリインストールされている場合にはインストールされないことがあります。
- Sound Organizerをアンインストールした場合にも、コンテンツ格納先フォルダ内のデータは消えません。
- 1台のパソコンに複数のオペレーティングシステムをインストールした環境では、それぞれのオペレーティングシステムにSound Organizerをインストールしないでください。データの不整合が生じる場合があります。

1 ICレコーダーのUSB DIRECTつまみをスライドし、起動しているパソコンのUSBポートに接続する。

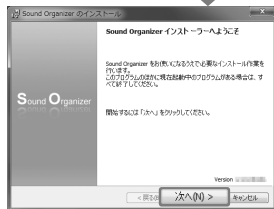
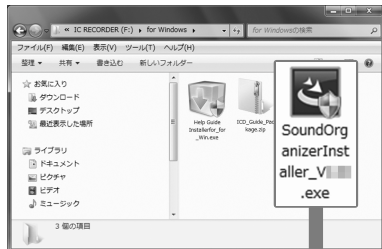
接続方法については、「ICレコーダーをパソコンに接続する」（115ページ）をご覧ください。

2 正しく認識されているかを確認する。

接続している間はICレコーダーの表示窓に「接続中」の表示が出ています。

3 Windowsの[スタート]メニューから、[コンピューター](または[マイコンピュータ])をクリックし、[IC RECORDER] → [FOR WINDOWS]をダブルクリックする。

画面はお使いのWindowsのバージョンによって異なります。本書では、Windows 7を例にして説明しています。

4 [SoundOrganizerInstaller_V140](または[SoundOrganizerInstaller_V140.exe])をダブルクリックする。

画面の指示に従って操作してください。

お使いのWindowsのバージョンによっては、この画面が表示されずに、セットアップの準備(解凍)が自動的に始まる場合があります。

5 使用許諾契約の内容を確認したら、「使用許諾契約に同意します」を選び、[次へ]をクリックする。

6 「インストールの種類」の画面が表示されたら、お好みで「標準」、「カスタム」のいずれかを選び、[次へ]をクリックする。

「カスタム」を選んだ場合は、画面の指示に従い、インストール設定を行ってください。

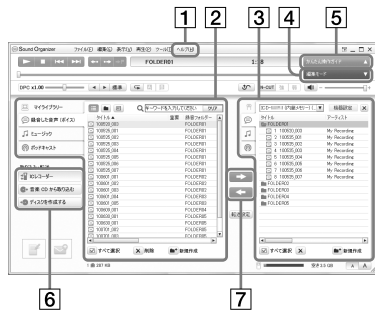
7 「インストールの開始」の画面が表示されたら、[インストール]をクリックする。

インストールが始まります。

8 「Sound Organizerは正常にインストールされました」の画面が表示されたら、「Sound Organizerを今すぐ起動する」をチェックし、[終了]をクリックする。

ご注意

Sound Organizerのインストール後、パソコンの再起動が必要になる場合があります。

Sound Organizerの基本操作について

1 ヘルプ

Sound Organizerのヘルプを表示します。各操作の詳細はヘルプを参照してください。

2 Sound Organizerファイル一覧(マイライブラリー)
Sound Organizerのマイライブラリーに含まれるファイルの一覧を、操作に合わせて表示します。
録音した音声(ボイス):録音した音声ファイルの一覧を表示します。
ICレコーダーで録音したファイルを取り込むと、このライブラリーに表示されます。
ミュージック:音楽ファイルの一覧を表示します。
音楽CDから楽曲を取り込むと、このライブラリーに表示されます。
ポッドキャスト:ポッドキャストの一覧を表示します。

3 ICレコーダーファイル一覧
パソコンに接続しているICレコーダーまたはメモリーカードに保存されているファイルが表示されます。

4 編集モードボタン
編集エリアを表示して、ファイルを編集できます。

5 かんたん操作ガイドボタン
Sound Organizerの基本的な機能をガイドする、「かんたん操作ガイド」を表示します。

6 サイドバー(取り込み・転送)
ICレコーダー:転送画面を表示します。接続機器内のファイル一覧が表示されます。
音楽CDから取り込む:音楽CDの取り込み画面を表示します。
ディスクを作成する:ディスク作成画面を表示します。

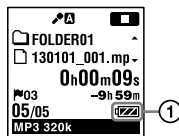
7 ファイル転送ボタン
:Sound OrganizerのファイルをICレコーダーまたはメモリーカードに転送します。
:ICレコーダー・メモリーカードのファイルをSound Organizerのマイライブラリーに取り込みます。

USB ACアダプターにつないで使う

USB ACアダプター (別売)を使って、ICレコーダーと家庭用電源(コンセント)をつないで内蔵充電式電池を充電したり、ICレコーダーを使用することができます。充電をしながらICレコーダーを使用することができるため、長時間録音をする場合などに便利です。
はじめてお使いになる場合や、しばらくお使いにならなかった場合は、電池マークが「FULL」になるまで連続して充電してください。
電池を使いきった状態から約4時間*で充電が完了します。

* 室温で電池残量が無い状態から充電したときの目安です。電池の残量や状態などにより、上記の充電時間と異なる場合があります。

1 別売のUSB ACアダプターをコンセントにつなぐ。

2 ICレコーダーのUSB DIRECTつまみをスライドし、USB ACアダプターにつなぐ。
充電中は、電池マーク(①)がアニメーション表示されます。
充電をしながらICレコーダーを使うことができます。

ご注意
- 内蔵スピーカーで再生中は充電できません。
- ICレコーダーを直接USB ACアダプターに接続できない場合は、USB接続補助ケーブル(付属)を使って接続してください。
- 録音中(録音ランプが赤に点灯、点滅)やアクセス中(アクセスランプがオレンジに点滅)はコンセントにつないだ状態のUSB ACアダプターからICレコーダーを抜き差ししたり、ICレコーダーを接続したUSB ACアダプターをコンセントから抜き差ししたりしないでください。データが破損するおそれがあります。

ICレコーダーを取りはずす

必ず下記の手順で取りはずしてください。この手順で行わないと、ICレコーダーにデータが入っている場合に、データが破損して再生できなくなるおそれがあります。

1 録音や再生などの動作中の場合、■ 停止ボタンを押して動作を停止する。

2 録音ランプ／アクセスランプが消えていることを確認する。

3 ICレコーダーをUSB ACアダプターから取りはずし、USB ACアダプターをコンセントから抜く。

使用上のご注意

ご使用場所について

運転中のご使用は危険ですのでおやめください。

取り扱いについて

- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 温度が非常に高いところ（60℃以上）。
  - 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
  - 窓を閉めきった自動車内（特に夏期）。
  - 風呂場など湿気の多いところ。
  - ほこりの多いところ。
- 水がかからないようご注意ください。ICレコーダーは防水仕様ではありません。特に以下の場合ご注意ください。
  - 洗面所などでICレコーダーをポケットに入れての使用。
    身体をかがめたときなどに、落として水濡れの原因になる場合があります。
  - 雨や雪、湿度の多い場所での使用。
  - 汗をかく状況での使用。
    濡れた手で触ったり、汗をかいた衣服のポケットにICレコーダーを入れると、水濡れの原因になることがあります。
- 空気が乾燥する時期にヘッドホンを使用すると、耳にピリピリと痛みを感じることがありますが、ヘッドホンの故障ではなく、人体に蓄積された静電気によるものです。静電気の発生しにくい天然素材の衣服を身に着けていただくことにより、軽減されます。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

ノイズについて

- 録音中や再生中にICレコーダーを電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 録音中にICレコーダーに手などが当たったり、こすったりすると、雑音が録音されることがあります。

お手入れ

本体表面が汚れたときは、水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコール類は表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、ICレコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ずパソコンなどにバックアップしてください。

メモリーカードのご使用について

- 初期化は必ずICレコーダーで行ってください。パソコンなどICレコーダー以外の機器を用いて初期化したメモリーカードは、ICレコーダーでの動作を保証しません。
- すでにデータが書き込まれているメモリーカードを初期化すると、そのデータが消去されてしまいます。誤って大切なデータを消去することがないよう、ご注意ください。
- メモリーカードは、小さいお子様の手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。
- 録音／再生／初期化中は、メモリーカードを抜き差ししないでください。故障の原因となります。
- 表示窓に「アクセス中...」、「初期化中...」のアニメーションが表示されている間や、アクセスランプがオレンジに点滅している間はメモリーカードを取り出さないでください。データが破損するおそれがあります。
- 対応仕様のメモリーカードでも、すべてのメモリーカードでの動作を保証するものではありません。
- M2™の対応表については、http://www.sony.jp/products/ms/compatible/icrecorder.html をご覧ください。
- "MagicGate™"（マジックゲート）は、ソニーが開発した、著作権を保護する技術の総称です。お使いのICレコーダーは、MagicGate™によるデータ録音、再生には対応していません。
- お使いのICレコーダーはパラレルデータ転送には対応していません。
- ROMタイプのメモリーカード、誤消去防止、書込み禁止のメモリーカードは、ご使用できません。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  - 読み込み中、書き込み中にメモリーカードを取り出したり、機器の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- お客様の記録したデータの破損（消滅）については、弊社は一切その責任を負いかねますのでご容赦ください。
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- 端子部には手や金属などを触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用はしないでください。
  - 使用条件範囲以外の場所（炎天下や夏場の窓を閉め切った車の中、直射日光のあたる場所、熱器具の近くなど）
  - 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所
- ご使用の際は正しい挿入方向をご確認ください。

主な仕様

必要なシステム構成

パソコンと接続する場合や、USBメモリーとして使う場合に必要なシステム構成は以下の通りです。
Sound Organizerをお使いの場合は、126ページをご覧ください。

OS

- Windows 8
- Windows 8 Pro
- Windows 7 Ultimate Service Pack 1以降
- Windows 7 Professional Service Pack 1以降
- Windows 7 Home Premium Service Pack 1以降
- Windows 7 Home Basic Service Pack 1以降
- Windows 7 Starter Service Pack 1以降
- Windows Vista Ultimate Service Pack 2以降
- Windows Vista Business Service Pack 2以降
- Windows Vista Home Premium Service Pack 2以降
- Windows Vista Home Basic Service Pack 2以降
- Windows XP Media Center Edition 2005 Service Pack 3以降
- Windows XP Media Center Edition 2004 Service Pack 3以降
- Windows XP Professional Service Pack 3以降
- Windows XP Home Edition Service Pack 3以降
- Mac OS X（v10.3.9 ～ v10.8）（ヘルプガイドをインストールする場合は、V10.5.8以降）

標準インストール（日本語版のみ）

ご注意

- 上記のOSがパソコン工場出荷時にインストールされている必要があります。
  推奨環境すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
  また、自作パソコンなどへお客様自身がインストールしたものや、アップグレードしたもの、マルチブート環境、マルチモニタ環境での動作保証はいたしません。
- Windows XPについては、64ビット版のOSは動作保証いたしません。
- 最新の対応OSについては、161ページに記載のICレコーダー サポート・お問い合わせページをご覧ください。

以下の性能を満たしたWindowsコンピューターまたはMac

- サウンドボード：各OSに対応したもの
- USBポート
- ディスクドライブ：音楽CDを作成する場合はCD-R/RWドライブが必要です。

ご注意

推奨環境すべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。また、自作パソコンなどへお客様自身がインストールしたものや、アップグレードしたもの、マルチブート環境、マルチモニタ環境での動作保証はいたしません。

ICレコーダー本体の仕様

容量（ユーザー使用可能領域：ICレコーダーで内蔵メモリーを初期化した場合）	
16 GB（約12.80 GB = 13,743,895,347 bytes） メモリー容量の一部をデータ管理領域として使用しています。	
最大フォルダ数（1ドライブ内）	
400フォルダ	
最大ファイル数（1フォルダ内）	
199ファイル	
最大ファイル数（1ドライブ内）	
4,074ファイル（フォルダ数が21の場合）	
周波数範囲（録音再生時：マイクジャック入力、ヘッドホンジャック出力にて規定）	
LPCM 192kHz/24bit	40 Hz ～ 40,000 Hz（再生のみ）
LPCM 96kHz/24bit	40 Hz ～ 40,000 Hz
LPCM 44.1kHz/16bit	40 Hz ～ 20,000 Hz
MP3 320kbps	40 Hz ～ 20,000 Hz
MP3 192kbps	40 Hz ～ 18,000 Hz
MP3 128kbps	40 Hz ～ 16,000 Hz
MP3 48kbps（MONO）	40 Hz ～ 14,000 Hz

再生対応ファイルフォーマット		
MP3*[1]	ビットレート	32 kbps ～ 320 kbps、可変ビットレート（VBR）対応
	サンプリング周波数	16/22.05/24/32/44.1/48 kHz
	拡張子	.mp3
	*[1] これに加えてICレコーダーの各録音モードで録音したMP3ファイルの再生にも対応しています。	
WMA*[2]	ビットレート	32 kbps ～ 192 kbps、可変ビットレート（VBR）対応
	サンプリング周波数	44.1 kHz
	拡張子	.wma
	*[2] WMA Ver.9には準拠していますが、MBR（Multi Bit Rate）、Lossless、Professional、Voiceには対応していません。著作権保護されたファイルは再生できません。	
AAC-LC*[3]	ビットレート	16 kbps ～ 320 kbps、可変ビットレート（VBR）対応
	サンプリング周波数	11.025/12/16/22.05/24/32/44.1/48 kHz
	拡張子	.m4a
	*[3] 著作権保護されたファイルは再生できません。	
LPCM	サンプリング周波数	22.05/44.1/48/96/176.4/192 kHz
	量子化ビット数	16 ビット
	拡張子	.wav
LPCM	サンプリング周波数	44.1/48/96/176.4/192 kHz
	量子化ビット数	24 ビット
	拡張子	.wav
* すべてのエンコーダーに対応しているわけではありません。		

スピーカー
約10 mm × 6 mm

入・出力端子
外部入力（ステレオミニジャック） 入力インピーダンス：約4 kΩ プラグインパワー対応 最小入力レベル：約1.5 mV
ヘッドホン（ステレオミニジャック） 推奨負荷インピーダンス：16 Ω ～ 32 Ω
USB端子（USB Type-A端子） High-Speed USB対応
カードスロット メモリースティック マイクロ™ （M2™） ／ microSD対応スロット
再生スピード調節（DPC）
3.00倍速~0.25倍速
実用最大出力
150 mW
電源
DC 3.7 V、内蔵リチウムイオン充電式電池
動作温度
5℃～ 35℃
最大外形寸法（最大突起部含まず）
約39.6 mm × 110.8 mm × 14.6 mm （幅／高さ／奥行き）（JEITA*4）

質量
約82 g （JEITA*4）
*4 電子情報技術産業協会（JEITA）規格。
付属品
9ページ参照
別売アクセサリー
エレクトレットコンデンサーマイクロホン ECM-CS10、ECM-CZ10、ECM-CS3、ECM-TL3
オーディオコード RK-G136、RK-G139
USB ACアダプター AC-UD20

ICレコーダーの仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

最大録音時間*5*6

最大録音時間は、全フォルダ合わせて表のとおりです。

録音モード(録音シーン)	内蔵メモリー	メモリーカード				
		2 GB	4 GB	8 GB	16 GB	32 GB
LPCM 96kHz/24bit	6時間35分	55分	1時間50分	3時間40分	7時間25分	14時間50分
LPCM 44.1kHz/16bit (/S1/S2)	21時間35分	3時間	6時間5分	12時間10分	24時間20分	48時間40分
MP3 320 kbps	95時間25分	13時間25分	26時間50分	53時間40分	107時間	214時間
MP3 192kbps (///)	159時間	22時間20分	44時間40分	89時間25分	178時間	357時間
MP3 128kbps ()	238時間	33時間30分	67時間5分	134時間	268時間	536時間
MP3 48kbps (MONO)	636時間	89時間25分	178時間	357時間	715時間	1,431時間

*5 連続録音の場合は、別売のUSB ACアダプターが必要になります。詳しくは電池の持続時間(141ページ)をご確認ください。
*6 表記の最大録音時間は目安です。カードの仕様によって変わることがあります。

音楽ファイル最大再生時間／ファイル数*7

ビットレート	再生時間	曲数
48 kbps	636時間	9,540ファイル
128 kbps	238時間	3,570ファイル
256 kbps	119時間	1,785ファイル

*7 パソコンにある1ファイル4分のMP3ファイルを転送して再生する場合

電池の持続時間

内蔵充電式電池の持続時間*[1]

録音モード	録音時	スピーカー再生時*[2]	ヘッドホン再生時
LPCM 96kHz/24bit	約12時間	約16時間	約16時間
LPCM 44.1kHz/16bit	約19時間	約18時間	約22時間
MP3 320 kbps	約17時間	約18時間	約22時間
MP3 192kbps	約17時間	約18時間	約22時間
MP3 128kbps	約17時間	約18時間	約22時間
MP3 48kbps(MONO)	約19時間	約18時間	約22時間
音楽ファイル（MP3：128kbps/44.1kHz）	—	約18時間	約22時間
音楽ファイル（LPCM：192kHz/24bit）	—	約12時間	約13時間

*[1] 電子情報技術産業協会（JEITA）規格による測定値です。使用条件によって短くなる場合があります。
*[2] 音量レベルを27に設定し、内蔵スピーカーで音楽を再生した場合。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付(取扱説明書の裏面)されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

ソニーの相談窓口(174ページ)、お買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではICレコーダーの補修・性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

困ったときは

「症状から調べる」(144ページ)の各項目で調べる。

リセットする。
リセットすると問題が解決することがあります。

充電する。
充電すると問題が解決することがあります。

パソコンを利用できる場合

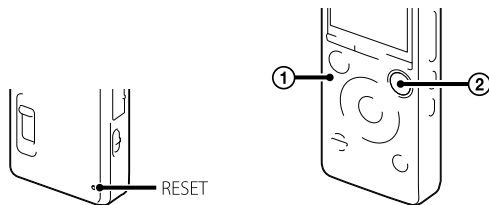
- **ヘルプガイドで調べる(161ページ)**
  パソコンで"ICレコーダー"の操作について、説明があります。
- **ICレコーダー「サポート・お問い合わせ」のホームページで調べる(161ページ)**
  インターネットに接続できる環境の場合、サポートホームページで最新情報を調べることができます。
- **Sound Organizerのヘルプで調べる(130ページ)**
  Sound Organizerについての操作方法はSound Organizerのヘルプで調べることができます。

上記を確認しても問題が解決しないときは、ソニーの相談窓口(174ページ)またはお買い上げ店に相談する。

症状から調べる

修理を依頼される前に、もう一度下記項目をチェックしてみてください。
なお、保証書とアフターサービスについては、142ページをご参照願います。
修理に出すと、録音した内容が消えることがあります。ご了承ください。

ICレコーダーのリセットについて

次ページからの「こんなときは」の項目をチェックしてみても解決しない場合、リセットすると、問題が解決することがあります。ピンなど先の細い棒で、RESETボタンを押してください。動作中にRESETボタンを押すと、ICレコーダーに保存しているデータや設定が消去される場合がありますので、アクセスランプ（①）および録音ランプ（②）が消えていることを確認してから操作してください。

こんなときは(ICレコーダー)

分類	症状	原因／処置
ノイズ	ノイズが多く聞き取りにくい。	• 音声以外の周囲音が録音されてしまうことがあります。 → 再生時に、ノイズカット機能を「オート」、「強」、「弱」に設定すると、プロジェクターや空調などの音声以外の周辺ノイズをカットします。 全帯域のノイズを低減するため、人の声をクリアな音質で再生することができます。
	ノイズを少なく録音したい。	• メニューのLCF(Low Cut)を「オン」に設定すると、ノイズを軽減した録音ができます。 また、シーンセレクト機能を使うと、さまざまな録音シーンに合わせて、録音モードや感度設定などの録音に必要な項目を、一括でおすすめの設定に切り換えることができます。
	カサカサと音が録音されている。	• 録音したとき、ICレコーダーに手などがあたったり、衣服とこすれたりすると雑音が録音されることがあります。 → 録音が終わるまでは、なるべく本体に触れないようにしてください。
	ジリジリと音が録音されている。	• 録音中や再生中にICレコーダーを電灯線、蛍光灯、携帯電話などに近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。 → ICレコーダーを離して録音してください。
	外部マイク(別売)で録音すると、雑音が入る。	• 外部マイクのプラグが汚れています。 → プラグをきれいにクリーニングしてください。
	ヘッドホンで聞くと雑音が入る。	• ヘッドホンのプラグが汚れています。 → プラグをきれいにクリーニングしてください。

分類	症状	原因／処置
ノイズ	ノイズカット機能を設定しているのにノイズが入る。	• 内蔵スピーカーで再生しているときは、ノイズカット機能は無効になります。 • ノイズカット機能が「オート」に設定されているときに、シーンセレクト機能が「おまかせボイス」、「会議」、「講演」、「ボイスメモ」、「インタビュー」のいずれかで録音したファイルを再生すると、ノイズカット機能が自動的に「弱」に設定されます。
電源	電源が入らない、または操作ボタンを押しても動作しない。	• 内蔵充電式電池が消耗しています。 • 電源がオフになっています。 → 画面が表示されるまで、電源・ホールドスイッチを「電源」の方向へスライドさせると、電源が入ります（24ページ）。 • ホールドがオンになっています。 → 電源・ホールドスイッチを中央位置にスライドしてください（35ページ）。
	電源が切れない。	• 停止中に、「電源オフ」のアニメーションが表示されるまで、電源・ホールドスイッチを「電源」の方向へスライドさせると、電源が切れます（24ページ）。
	電源が自動的に切れる。	• 停止状態で操作をしないまま放置していると、「オートパワーオフ」機能が働きます。（お買い上げ時は、設定は10分になっています。）メニューでオートパワーオフ設定を変更すると、電源オフまでの時間を変更できます（113ページ）。 • スリープタイマーが設定されています。

分類	症状	原因／処置
電源	電池の持続時間が短い。	• 141ページの電池の持続時間は、音量レベルを27で再生した場合の目安です。使用条件によって短くなる場合があります。 • 使用しない場合でも、わずかですが電池を消耗します。長い間ご使用にならない場合は、こまめに電源を切る(24ページ)ことをおすすめします。また、オートパワーオフ設定(113ページ)時間を短くしておくと切り忘れでの電池の消耗を抑えることができます。 • 短時間で電池残量表示が点灯しますがフル充電になっていません。電池残量が無い状態からフル充電までは約4時間かかります。 • しばらく使用していませんでしたか?何回か充電、放電(ICレコーダーを動作させる)を繰り返してください。 • 5℃以下の環境で使用しています。電池の特性によるもので故障ではありません。 • 内蔵充電式電池が劣化しています。 → 充電式電池は、ご使用の環境にもよりますが約1,000回の充電が可能です。充分に充電した状態でも、使用できる時間が通常の半分ほどになったときは、電池が劣化しています。 → ソニーの相談窓口にお問い合わせください。
充電	パソコンで充電できない。	• 起動していないパソコンに接続しても充電できません。また、パソコンが起動していても、休止状態(スタンバイ、スリープ)のときは充電できません。 • パソコンからICレコーダーをはずし、再度接続してください。 • ICレコーダーが対応しているシステム構成をご確認ください。
	充電表示が表示されない、または途中で消えてしまう。	• ICレコーダーのUSB端子が正しく接続されていません。 • 内蔵スピーカーで再生中は充電できません。 • 内蔵充電式電池が不活性化しています。 → 長期間使わないと、電池が「不活性化」という現象になることがあります。この現象は、何度か充電と放電をくり返しながら使っているうちに、回復することがあります。

分類	症状	原因／処置
充電	電池残量、充電表示部に COLD または HOT が点滅表示している。	• ICレコーダーの充電可能な温度範囲外になっています。周囲温度が動作温度（5℃～35℃）になるようにしてください。
動作	正常に動作しない。	• パソコンで初期化しています。 → ICレコーダーで初期化を行ってください（114ページ）。
	録音ランプまたはアクセスランプが点灯しない。	• メニューの「ランプ」が「オフ」に設定されています。 →「オン」に切り換えてください（111ページ）。
録音	録音できない。	• 録音残り時間が不足している場合は録音できません。 • 再生専用エリアの ♫タブ、◎タブで管理されているフォルダには録音できません。
	録音が途中で止まる。	• VORが作動しています。VORを使用しないときは、メニューで「オフ」にしてください（62ページ）。
	VOR機能が働かない。	• マニュアル録音やシンクロ録音では、VOR機能は働きません（62ページ）。
	他の機器から録音するとき、録音レベルが小さすぎたり大きすぎたりする。	• 他の機器のヘッドホン端子を使ってICレコーダーと接続し、つないだ機器側で音量を調節してください。 • 抵抗入りのオーディオコードを使うと録音レベルが小さくなります。抵抗なしコードをお使いください。 • 感度設定が「低」または「低（音楽）」になっています。 →「高」、「中」、「高（音楽）」のいずれかに切り換えてください（45ページ）。 • 感度設定が「マニュアル」のときは、録音レベルを調節してください（39ページ）。
	入力される音が歪む。	• 入力される音に入力過多な部分があります。 • メニュー項目の「リミッター」を「オン」に設定してください。

分類	症状	原因／処置
録音	追加、または上書き録音できない。	• メニューの「追加/上書き」が「オフ」になっているとできません。設定し直してください（56、58ページ）。 • 録音残り時間が不足している場合は追加、または上書き録音できません。なお、上書き録音の場合、上書きされる部分は新たに録音される部分の録音が終わってから消去されるため、録音できるのは現在の残り録音可能時間分のみです。 • ICレコーダーで録音していないファイルには追加／上書き録音できません。 • 再生専用エリアの ♫タブ、◎タブで管理されているファイルは追加、または上書き録音できません。 • 保護設定されているファイルは追加、または上書き録音できません。
再生	再生音量が小さい。	• ICレコーダーに内蔵しているスピーカーはモニター用のため、再生音が小さくなっています。 → 付属のヘッドホンを使用してください。 • 小さな音が聞きづらいときは、デジタルボイスアップ再生をすると聞き取りやすくなる場合があります（74ページ）。
	再生音が大きくなったりする。	• ボイスアップ設定が「強」または「弱」になっています。設定を「オフ」にしてください（74ページ）。
	スピーカーから音が出ない。	• ヘッドホンをつないでいます（83ページ）。
	ヘッドホンをつないでいても、スピーカーから音が出る。	• 再生中にヘッドホンを差し込むとき、最後まで差し込まないとスピーカーからも音が聞こえてしまうことがあります。 → いったんヘッドホンを抜いて、最後までしっかり差し込んでください。
	「エフェクト」で音質が変化しない	• 内蔵スピーカーで再生している場合はエフェクト設定は無効になります。 • 「ノイズカット」が「オート」、「強」、または「弱」に設定されているときは、エフェクト設定は働きません。

分類	症状	原因／処置
再生	再生スピードが速すぎたり遅すぎたりする。	• DPC（速度)/KEY CTRLスイッチが「入」になっているため、▲ または ▼ で調節した再生スピードで再生されています。 → DPC（速度)/KEY CTRLスイッチを「切」にすると、通常の速度で再生されます。または、▲ または ▼ で再生スピードを調節してください（77ページ）。
	音楽ファイルの再生音質が良くない。	• 「ノイズカット」が「オート」、「強」、または「弱」に設定されています。 → 音楽ファイルを再生するときは、「ノイズカット」を「オフ」に設定してください。
編集	ファイルを分割できない。	• メモリーに一定の空き容量がありません。 • 選んだフォルダ（□）に199のファイルが入っています。 → 不要なファイルを消去する（91ページ）か、別のメモリーもしくはパソコンに保存してから、メモリーの内容を消去してください。 • システムの制約により、ファイルのはじめと終わりでファイル分割できないことがあります。 • ICレコーダーで録音されたファイル以外（パソコンから転送したファイル）は、分割できません。 • 保護設定されているファイルは、分割できません。 → 保護設定を解除してから操作してください。 • 音楽ファイルやポッドキャストファイルは、分割できません。
	ファイルを移動できない。	• ポッドキャストは移動できません。 • 保護されているファイルは移動できません。 • メモリーカードにはファイルは移動できません。
	ファイルを別のメモリーへコピーできない。	• ポッドキャストはコピーできません。
時計	時計表示が「--:--」になる。	• 時計を合わせていません（25ページ）。
	録音日時表示が「--y--m --d」または「--:--」になる。	• 時計を合わせていないときに録音したファイルには、録音した日付は表示されません。

分類	症状	原因／処置
表示	メニュー表示の項目が足りない。	• 再生、録音中、書き起こし用再生中は、表示されないメニューがあります。
	ICレコーダーに表示される残り時間が、パソコン上での残量表示より短い。	• ICレコーダーではシステム上必要な領域を差し引いて表示しているため、Sound Organizerでの残量表示と異なる場合があります。
ファイル	「メモリーが一杯です」のアニメーションが表示され、録音できない。	• メモリーがいっぱいになっています。 → 不要なファイルを消去する（91ページ）か、別のメモリーもしくはパソコンに保存してから、メモリーの内容を消去してください。
	「ファイルが一杯です」のアニメーションが表示され、操作できない。	• 選んだフォルダ（□）に199のファイルが入っているか、または、全体で4,074のファイル（フォルダが21個のとき）が入っているため、録音やファイル移動ができません。 → 不要なファイルを消去する（91ページ）か、別のメモリーもしくはパソコンに保存してから、メモリーの内容を消去してください。
	メモリーカードが認識されない。	• メモリーカードを取り出し、裏表を確認して再度入れ直してください（28ページ）。 • ICレコーダーのメモリーを「メモリーカード」に切り換えてください（33ページ）。
パソコン	変更したメニュー設定が反映されていない。	• 電池残量が無い状態でSound Organizerの「本体設定」を使ってメニューの設定を変更した場合、ICレコーダーのメニュー設定が反映されないことがあります。
	フォルダ名やファイル名が文字化けしてしまう。	• WindowsのエクスプローラまたはMacのFinderを使ってパソコンで名前を入力した場合、ICレコーダーで対応していない特殊文字や記号が混ざっていると、ICレコーダーの表示窓では文字化けすることがあります。
	ファイルコピーに時間がかかる。	• ファイルサイズによっては、コピーに時間がかかることがあります。実行が終わるまでお待ちください。

分類	症状	原因／処置
パソコン	パソコンで認識しない。 パソコンからフォルダ、ファイルが転送できない。	• パソコンからICレコーダーをはずし、再度接続してください。 • 付属のUSB接続補助ケーブル以外のUSBハブ、またはUSB延長ケーブルをご使用の場合は、ICレコーダーを直接、または付属のUSB接続補助ケーブルを使って接続してください。 • ICレコーダーが対応しているシステム構成（126ページ）以外では、動作保証はいたしかねます。 • お使いのパソコンのUSBポートの位置によっては、認識できないことがあります。別のUSBポートに接続してください。
	ICレコーダーに転送したファイルが表示されない、または再生されない。	• 表示できるファイルは8階層目までです。 • ICレコーダーで対応しているLPCM(.wav)/MP3(.mp3)/WMA(.wma)/AAC-LC(.m4a)以外のファイルは、表示されない場合があります。「ICレコーダー本体の仕様」をご確認ください（137ページ）。
	パソコンが起動しない。	• ICレコーダーをパソコンに接続したまま、パソコンを起動すると、パソコンがフリーズしたり、起動しないことがあります。 → ICレコーダーをパソコンからはずして起動してください。

こんなときは（Sound Organizer）

Sound Organizerのヘルプもあわせてご覧ください。

症状	原因／処置
インストールできない。	• ハードディスクの空き容量が少なくなっています。 → 容量を確認してください。 • Sound Organizerが動作保証していないOSのパソコンにインストールしようとしませんでしたか？ → 対応しているOS（126ページ）のパソコンにインストールしてください。 • Windows XPの制限ユーザー、Windows Vista、Windows 7またはWindows 8のGuestアカウントでログオンしています。 →「コンピューターの管理者」に所属するユーザー名でログオンしてください。
ICレコーダーと接続できない。	• ソフトウェアのインストール、接続ケーブルの接続などを正しく行ったか確認してください。 – 外付けUSBハブをご使用の場合には、直接パソコンに接続するか、付属のUSB接続補助ケーブルを使って接続してください。 – ICレコーダー側の接続ケーブルを抜き差ししてください。 – 他のUSBポートで接続してみてください。 • システムサスペンド／システムハイパネーションモードに移行しています。 → システムサスペンド／システムハイパネーションモードに移行しないでください。 • 内蔵メモリーやメモリーカードのデータをパソコンにすべてバックアップした後で、内蔵メモリーおよびメモリーカードをICレコーダーで初期化してください（114ページ）。
パソコンからの再生音量が小さい、 パソコンから音が出ない。	• サウンドボードが付いていません。 • パソコンにスピーカーが内蔵または接続されていません。 • ミュートが解除されていません。 • パソコン側で音量を上げてみてください。（詳しくはお使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。） • WAVファイルの場合は、サウンドレコーダー（Windowsに搭載）で音量を上げて保存しなおすこともできます。

症状	原因／処置
保存したファイルが再生、編集できない。	• 対応していないファイル形式のファイルは再生できません。また、ファイル形式によっては一部の編集機能がお使いになれません。詳しくは、ヘルプをご覧ください。
カウンターやスライダーの動きがおかしい、 雑音が入る。	• 分割を行ったファイルをパソコン上で再生したときに発生する場合があります。 → いったんハードディスクに保存してから*再度ICレコーダーに戻すと、データが最適化され、正常な再生に戻ります。(*ICレコーダーの形式に合ったファイル形式で保存してください。)
ファイル数が多くなると動作が遅くなる。	• 録音時間の長さに関係なく、ICレコーダー内のファイルの総数が多いと、処理に時間がかかることがあります。
ファイルの保存・追加・消去中に画面が動かなくなる。	• 録音時間の長いファイルの場合、コピーまたは消去に時間がかかります。 → コピーまたは消去が終了するまでお待ちください。通常の操作ができるようになります。
本ソフトウェアを起動したときフリーズ(ハングアップ)してしまう。	• ICレコーダーと通信を行っている間は絶対にケーブルを抜かないでください。パソコンの動作が不安定になったり、ICレコーダー内のデータが壊れるおそれがあります。 • 他にインストールされているドライバおよびアプリケーションソフトとのコンフリクトの可能性があります。

メッセージ表示一覧

メッセージ表示	原因
ホールド中 解除してください	• ICレコーダーが誤操作防止（ホールド）状態になっているため、すべてのボタン操作が無効になっています。電源・ホールドスイッチを中央位置にスライドして、ホールドを解除してください（35ページ）。
電池が残りわずかです	• 電池が残りわずかのため、初期化やフォルダ内消去ができません。内蔵充電式電池を充電してください（21ページ）。
充電してください	• 電池が消耗しています。内蔵充電式電池を充電してください（21ページ）。
更新に必要な電池残量がありません	• 電池残量が充分ではないため、ソフトウェアのアップデートができません。内蔵充電式電池を充電してください（21ページ）。
メモリーカードエラー	• メモリーカードスロットにメモリーカードを挿入時にエラーが発生しました。いったんメモリーカードを抜き差ししてください。それでも同じエラーが表示される場合は、別のメモリーカードをお使いください。
非対応のメモリーカードです	• ICレコーダーが対応していないメモリーカードが使われています。「ICレコーダーで使用できるメモリーカード」をご覧ください（29ページ）。
メモリーカードがロックされています	• メモリーカードが書き込み禁止になっています。ICレコーダーではお使いいただけません。
読み取り専用のメモリーカードです	• 読み取り専用メモリーカードが使われています。ICレコーダーではお使いいただけません。
アクセスは禁止されています	• アクセスコントロール機能が働いているメモリーカードを挿入しました。ICレコーダーではお使いいただけません。
メモリーが一杯です	• 録音、またはコピーできるメモリー容量がなくなりました。いくつかのファイルを消去してからやり直してください（91ページ）。

メッセージ表示	原因
ファイルが一杯です	• フォルダ内のファイルの合計か、全体のファイル数が最大になったため、新規のファイルを作成できません。いくつかのファイルを消去してからやり直してください(91ページ)。
登録が一杯です	• アラーム登録は30件までです。未使用のアラーム設定を解除してください。 • メニューの「フォルダ名変更」を実行したときに、選択したフォルダ名と同名のフォルダが10個存在しています。別のフォルダ名を選択してください。
トラックマークが一杯です	• すでに上限までトラックマークを設定しているため、これ以上追加できません。不要なトラックマークを消去してください(98ページ)。
ファイルが壊れています	• 選んだファイルのデータが破損しているので、再生や編集ができません。
内蔵メモリーの初期化が必要です／メモリーカードの初期化が必要です	• パソコンでメモリー (内蔵メモリーまたはメモリーカード)を初期化したためUSB接続で電源を入れようとしても、動作に必要な管理ファイル作成ができません。ICレコーダーのメニューで内蔵メモリー、またはメモリーカードを初期化してください(114ページ)。パソコンで初期化しないでください。
処理を継続できません	• 必要なデータをバックアップしてからICレコーダーのメニューで内蔵メモリー、またはメモリーカードを初期化してください(114ページ)。 • 上記で解決しない場合は、ソニーの相談窓口(174ページ)までご連絡ください。
停止してからメモリーカードを再挿入してください	• 再生、録音処理中にメモリーカードを挿入したため、メモリーカードが認識できませんでした。一度メモリーカードを抜いてから、停止状態のときに、挿入してください。
時計を設定してください	• 時計合わせをしていないと、アラームは設定できません。
ファイルがありません	• 選んだフォルダには1つもファイルが録音されていません。ファイル移動とアラーム再生の設定などの操作ができません。
トラックマークがありません	• トラックマークが設定されていないため、トラックマークの消去、全分割が実行できません。
登録がありません	• アラーム設定を1件もしていない場合は、「アラーム一覧」は表示できません。アラーム設定を「新規」で設定してください(88ページ)。

メッセージ表示	原因
ファイルが保護されています	• 選んだファイルが保護設定されているか、「読み取り専用」になっています。消去などができません。ICレコーダーで保護設定を解除するか、パソコン上で「読み取り専用」属性をはずすと、操作できるようになります（106ページ）。
既に設定済みです	• 既に別のファイルで同じ日時にアラーム再生が設定されています。設定を変更してください。 • 選んだファイルには既にアラーム再生が設定されています。別のファイルを選択してください。
過去の日時です	• 現在日時よりも前の日時でアラームを設定しようとしています。年月日などもう一度確認して、設定し直してください（88ページ）。
非対応のデータです	• ICレコーダーで対応していないファイル形式のデータです。ICレコーダーが対応しているファイル形式（拡張子）は、LPCM(.wav)/MP3(.mp3)/WMA(.wma)/AAC-LC(.m4a)となります。詳しくは「ICレコーダー本体の仕様」をご覧ください（138ページ）。 • 著作権保護されたファイルは再生できません。
追加／上書き設定がオフです	• メニューで「追加／上書き」が「オフ」に設定されているので、追加または上書き録音ができません（56、58ページ）。
操作できません	• 再生専用エリアの ♫タブ、◎タブで管理されているファイルは分割やトラックマーク設定ができません。 • メモリーカードが後発不良（BADBLOCK）になった場合、データの書き込みができません。新しいメモリーカードを準備してください。 • ファイル名が最大文字数に達しているため、分割できません。ファイル名を短くしてください。 • 分割実行位置の前後0.5秒未満にトラックマークが設定されているため、「トラックマーク全分割」が実行できません。 • ファイルの先頭または終端から0.5秒未満にトラックマークが設定されているため、「トラックマーク全分割」が実行できません。 • ファイルの長さが1秒未満のため、分割できません。 • ファイルの先頭または終端から0.5秒未満では、「現在位置分割」は実行できません。

メッセージ表示	原因
新しいファイルで録音を継続します	• 録音中のファイルがファイルサイズの上限(LPCMは2GB、MP3は1GB)に達しています。ファイルは自動的に分割され、録音を継続します。
ノイズカット設定時は無効です	• 「ノイズカット」が「オート」、「強」、または「弱」に設定されている場合は、エフェクト設定よりもノイズカット機能が優先されます。「ノイズカット」を「オフ」に設定してください(73ページ)。
フォルダを切り換えます	• またはで表示されるフォルダにファイルがひとつもない場合、フォルダが表示できないため、表示できるフォルダに切り換えます。
ファイル数が上限を超えるため分割できません	• フォルダ内のファイルの合計か、全体のファイル数が最大になったため、ファイルの分割はできません。不要なファイルを消去してからやり直してください(91ページ)。
同名のファイルが存在します	• 作成されるファイルと同名のファイルが存在しているため、ファイルの作成ができません。
分割位置付近のトラックマークを消去しました	• 分割実行位置の前後0.5秒以内にトラックマークが設定されていた場合は、自動的に消去されます。
メモリーカードでは操作できません	• メモリーカードに保存しているファイルには、アラーム設定できません。ICレコーダーのメモリーを「内蔵メモリー」に切り換えてください(33ページ)。
シーンセレクトをオフに設定してください	• メニューの「シーンセレクト」が「オフ」になっていない場合は、メニューの「録音モード」、「内蔵マイク設定」/「外部入力設定」の「感度設定」、「LCF(Low Cut)」、「リミッター」、「VOR」の設定を変更することはできません。
メモリーを切り換えて録音を継続します	• 「クロスメモリー録音」が有効に設定されている場合、現在のメモリーがいっぱいになると自動的に、もう一方のメモリーに切り換えて録音を継続します(69ページ)。
メモリーカードがありません	• メモリーカードスロットにメモリーカードが挿入されていないため、「メモリー切り換え」、「ファイルコピー」、「クロスメモリー録音」の設定はできません。
マニュアル設定時に有効です	• メニューの「内蔵マイク設定」または「外部入力設定」の「感度設定」が「マニュアル」に設定されていません。リミッター設定は働きません。

メッセージ表示	原因
マニュアル設定時は無効です	• メニューの「内蔵マイク設定」または「外部入力設定」の「感度設定」が「マニュアル」に設定されています。VOR設定は働きません。
故障です	• 何らかの原因でシステムエラーが発生しています。RESETボタンを押して、ICレコーダーを再起動してください。それでも動作しない場合は、ソニーの相談窓口（174ページ）までご連絡ください。

システム上の制約

ICレコーダーの録音方式では、いくつかのシステム上の制約があり、次のような症状が出る場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

症状	原因／処置
最大録音時間まで録音できない。	• 様々な録音モードを混ぜて録音すると、最大録音時間は各モードの最大録音時間の間になります。上記の理由により、実際に録音した時間（カウンター表示）の合計と、「録音可能時間」を合計した時間が、最大録音時間より少なくなる場合があります。
音楽ファイルを順番に表示、再生できない。	• パソコンを使って、ICレコーダーに転送した音楽ファイルは、システムの制約により転送順にならないことがあります。パソコンにある音楽ファイルを1ファイルずつICレコーダーに転送すると、表示、再生の順番を転送順に合わせることができます。
録音中に自動的に分割されてしまう。	• 録音中のファイルまたは音楽がファイルサイズの上限（LPCMは2 GB、MP3は1 GB）に達しています。ファイルは自動的に分割されます。
英文字がすべて大文字になってしまう。	• パソコンで作成したフォルダ名称の文字の組み合わせによっては英文字がすべて大文字になってしまうことがあります。
フォルダ名、ファイル名、アーティスト名、タイトル名が文字化け、または「□」が表示される。	• ICレコーダーで表示できない文字が使用されています。フォルダ名、ファイル名、アーティスト名または、タイトル名を半角英数字に置き換えてください。
A-Bリピート設定で、設定位置がずれてしまう。	• ファイルによっては、設定位置がずれてしまうことがあります。
ファイルを分割すると、録音可能時間が少なくなる。	• ファイルを分割すると、ファイル管理をする領域が必要になるため、録音可能時間が少なくなります。

サポートホームページで調べる

パソコンをインターネットに接続できる環境の場合、ICレコーダー「サポート・お問い合わせ」のホームページ(http://www.sony.jp/support/ic-recorder/)でトラブルの解決方法や最新情報などを調べることができます。

サポートホームページでは、以下の情報などを見ることができます。

□ Q&A(よくある問い合わせ情報)
□ 動画でサポート(上手な録音方法(シーン別録音のコツ)など)
□ ソフトウェアアップデートなどの最新情報
□ 製品別サポート情報
□ Sound Organizerのソフトウェアの使いかた
□ 重要なお知らせ(サポートからの重要なお知らせ)
□ 製品登録(製品登録へのご案内)
□ Sound Organizerや「ヘルプガイド」のダウンロードサービス

ヘルプガイドで調べる

ヘルプガイドは、本体内蔵メモリーからICレコーダーガイドをインストールするか、ヘルプガイドページ(http://rd1.sony.net/help/icd/sx3/jp/)で見ることができます。

ICレコーダーガイドをインストールする。

1 ICレコーダーのUSB DIRECTつまみをスライドし、起動しているパソコンのUSBポートに接続する。

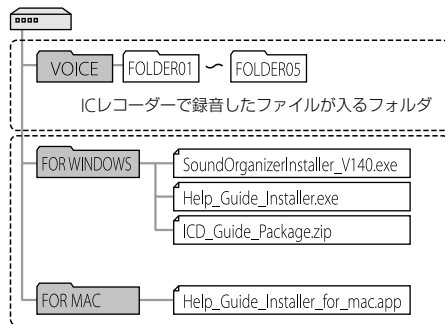
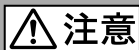
2 インストールする。

Windowsでは、「コンピュータ」または「マイコンピュータ」を開き、「IC RECORDER」→[FOR WINDOWS]→[Help_Guide_Installer_for_Win](または[Help_Guide_Installer_for_Win.exe])をダブルクリックする。
Macでは、Finderを使って、デバイスの「IC RECORDER」を開き、[FOR MAC]→[Help_Guide_Installer_for_Mac](または、[Help_Guide_Installer_for_Mac.app])をクリックする。(v10.5.8 以降)

3 インストールしたあとに、パソコンのデスクトップの[Help_Guide_icdsx3_jp.htm]アイコンをダブルクリックする。

「ヘルプガイド」が表示されます。

フォルダとファイルの構成

パソコンの画面で見ると、次の図のように表示されます。

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

内部を開けない

感電の原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音がでて耳を痛めることがあります。

- 本製品の不具合により、録音や再生ができなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合など、いかなる場合においても録音内容の補償についてはご容赦ください。
  また、いかなる場合においても、当社にて録音内容の修復、復元、複製などはいたしません。
- 本製品を使用したことによって生じた金銭上の損害、逸失利益および第三者からのいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- お客様が録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や、ICレコーダーの故障などによるデータの消滅や破損にそなえ、大切な録音内容は、必ず予備として、パソコンまたはメモリーカードに保存してください。

本機を廃棄するときのご注意

機器に内蔵されている充電式電池はリサイクルできます。
この充電式電池の取り外しはお客様自身では行わず、「ソニーの相談窓口」にご相談ください。(「ソニーの相談窓口」の連絡先は174ページに記載されています。)

著作権と商標について

著作権について

- 権利者の許諾を得ることなく、このマニュアルの全部または一部を複製、転用、送信等を行うことは、著作権法上禁止されております。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上権利者に無断で使用できません。著作権の対象になっている画像やデータの記録されたメディア及びメモリースティック™メディアは、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意ください。

モジュールについて

Sound Organizerは、以下のソフトウェアモジュールを使用しています。
Windows Media Format Runtime

商標について

- Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Mediaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Mac OSは米国その他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- Pentiumは米国Intel Corporationの商標または登録商標です。
- 本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- microSDおよびmicroSDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。

- "Memory Stick Micro"("M2")及び、 は、ソニー株式会社の商標 または登録商標です。

- MagicGate™はソニー株式会社の商標です。
- AmiVoiceおよびAmiVoiceのロゴマークは株式会社アドバンスト・メディアの商標です。
- Nuance、Nuanceのロゴ、Dragon、Dragon NaturallySpeaking、RealSpeakは、米国とその他の国々におけるNuance Communications Inc.、およびその関連会社の商標または登録商標です。

その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では®、™マークは明記していません。

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft Corporation. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft or an authorized Microsoft subsidiary.

索引

数字、記号、アルファベット順

五十音順

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

お問い合わせ窓口のご案内

本機についてご不明な点や技術的なご質問、故障と思われるときのご相談については、下記のお問い合わせ先をご利用ください。

- **ホームページで調べるには→ICレコーダー サポート・お問い合わせへ(http://www.sony.jp/support/ic-recorder/)**
  ICレコーダーに関する最新サポート情報や、よくあるお問い合わせとその回答をご案内するホームページです。
- **電話・FAXでのお問い合わせは→ソニーの相談窓口へ(下記電話・FAX番号)**
  - 本機の商品カテゴリーは[ICレコーダー]です。
  - お問い合わせの際は、次のことをお知らせください。

    ◆セット本体に関するご質問時:
    - 型名:ICD-SX1000
    - シリアルナンバー:本体裏面に記載
    - ご相談内容:できるだけ詳しく
    - お買い上げ年月日

    ◆ソフトウェアに関連するご質問時:
    質問の内容によっては、お客さまのシステム環境について質問させていただく場合があります。上記内容に加えて、システム環境を事前に分かる範囲でご確認いただき、お知らせください。

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.jp/support/**

使い方相談窓口	フリーダイヤル	**0120-333-020**
	携帯電話・PHS・一部のIP電話	**0466-31-2511**
修理相談窓口	フリーダイヤル	**0120-222-330**
	携帯電話・PHS・一部のIP電話	**0466-31-2531**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

➡ 左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「303」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX(共通)0120-333-389

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

無料修理規定

1. 正常な使用状態で保証期間内に製品（ハードウェア）が故障した場合には、本書に従い無料修理をさせていただきます。本書記載の修理対応の種別（出張修理、持込修理、引取修理）をご確認の上、以下の要領でご依頼および本書（再発行しませんので、大切に保管してください）の提示・提出をお願いいたします。なお、受付窓口の種類は、⑴お買上げの販売店、⑵お近くのソニーサービスステーション、⑶本書に記載の修理相談窓口の３種類です。

種別	受付窓口	保証書の提示・提出	注意事項
出張修理	⑴⑵⑶	出張修理担当者が訪問した際に提示	※1
持込修理	⑴⑵	持参した製品の修理依頼の際に提示	※２
引取修理	⑶	製品の引取時に指定業者へ提出	

※1 離島及び離島に準ずる遠隔地への出張修理となる場合、出張費用（実費）を申し受けます。
※２ ⑴⑵へのご依頼が難しい場合は、⑶にご相談ください。

2. お客様のご要望により、出張修理の種別について引取修理を、持込修理の種別について出張修理・引取修理を、引取修理の種別について出張修理を行う場合は、別途所定の料金を申し受けます。
3. 保証期間内の故障でも次の場合には有料となります。
⑴本書のご提示がない場合⑵本書のお買上げの年月日、お客様名、販売店名を書き換えた場合⑶お買上げの年月日、販売店が確認できない場合⑷保証期間中に発生した故障について、保証期間終了後に修理依頼された場合⑸使用上の誤り（取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きに従った正常な使用をしなかった場合を含む）による故障・損傷⑹他の機器から受けた障害または不当な修理、改造による故障・損傷⑺お買上げ後の移設、輸送、落下などによる故障・損傷⑻火災、地震、風水害、落雷その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障・損傷⑼業務用など一般家庭用以外での使用による故障・損傷⑽消耗・摩耗した部品の交換、汚損した部分の交換
4. 故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。
5. 修理に際して再生部品・代替部品を使用する場合があります。また、修理により交換した部品は弊社が任意に回収のうえ適切に処理・処分させていただきます。
6. 本書に基づく無料修理（製品交換を含む）後の製品については、最初のご購入時の保証期間が適用されます。
7. 故障によりお買上げの製品を使用できなかったことによる損害については補償いたしません。
8. 記録媒体を搭載または使用する製品の場合、故障の際または修理・交換により記録内容が消失等する場合がありますが、記録内容についての補償はいたしません。
9. 本書は日本国内でのみ有効です。（This warranty is valid only in Japan.）

修理メモ	

＊本書はお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
＊保証期間後の修理については、取扱説明書等をご覧ください。

T01-1

保証書

持込修理

品名	ICレコーダー
型名	ICD-SX1000
お買い上げ日	平成・西暦　　年　　月　　日

本書は、本書記載内容（裏面記載）で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から下記期間中に故障が発生した場合は、お客様欄にご記入の上、修理をお申付けください。

販売店	

お問合せ先：修理相談窓口
フリーダイヤル：**0120-222-330**（FAX 0120-333-389）
携帯電話・PHS・一部のIP電話からは、0466-31-2531
ホームページ：http://www.sony.jp/support/
ソニーマーケティング株式会社
東京都港区港南1-7-1 〒108-0075

保証期間	お買上げの日から　1年
お客様住所 お名前	電話　-　- 様

T01-1

(1)